

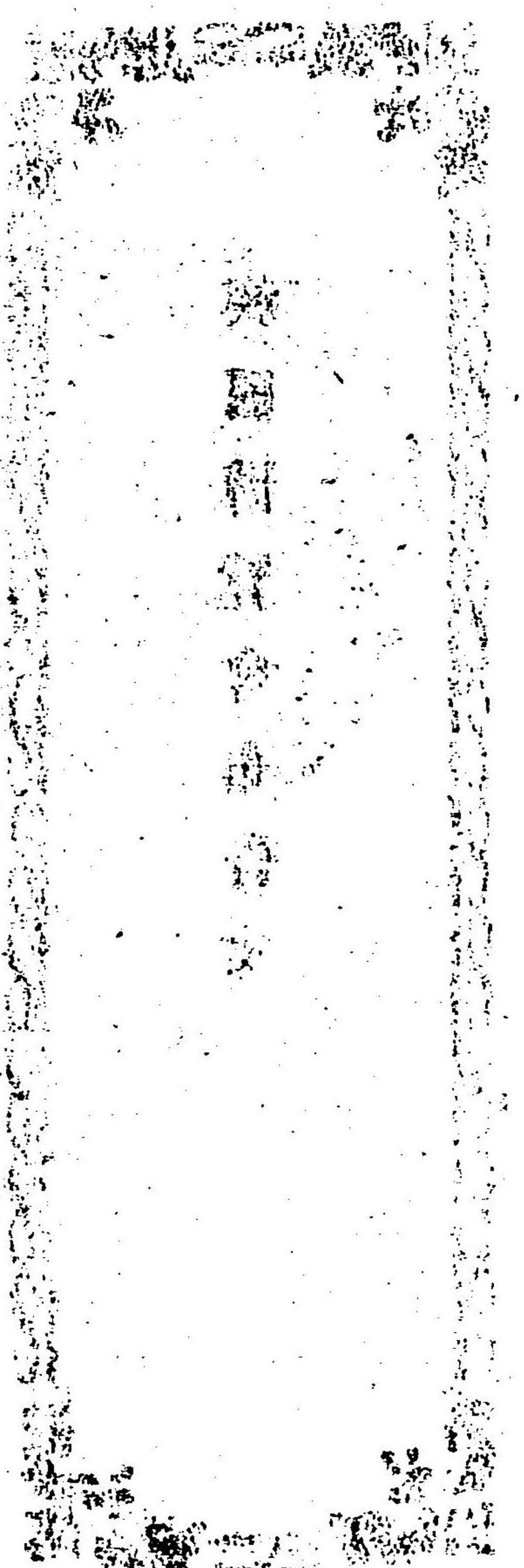
澳國博覽會報告書世四



澳國博覽會布告文

特39

323
四共廿五本



明治九年文部省交付

模様其裝飾及家材ノ

此區モ亦學術上ニ於テ查究スベキ肝要ナルモノナリ

今茲ニ各國ノ風習ニ關スルモノヲ集メテ展覽
セシメ方今各國ニ於テ家屋ノ形狀ハ如何ヲ示
サント欲スルニハアラス只ソノ國ノ氣候土地
風習等ニ最モ適宜ナルモノハ如何ヲ示スノ目

新書

興國博覽會事務局

的ナリ
 抑家屋建築ノ方法ニ至テハ各國並ニ其進步他
 事ニ比スレバ後レタリ
 當今生業ノ道變シ交通ノ方法日々新ナリ殊ニ
 地價騰貴セシテ以テ往古ノ如キ家屋ノ形狀ヲ
 存スルヲ得サルニ至レリ故ニ數層ノ高樓ヲ造
 リ一層毎ニ一家族住居シ人口甚タ稠密セシテ
 以テ其健康等ニ害アルコト舉テ數フヘカラス
 故ニ方今至ル處其風習ニ極メテ適スルノ新建
 築法ヲ發明セント大ニ注意セリ故ニ此博覽會

ニ於テ開化諸國ノ諸工匠各ソノ風習及氣候等
 ニ極メテ適宜ノモノヲ顯シ之ヲ觀察スル人ヲ
 シテ互ニ比較セシメソノ最モ適宜ナルモノヲ
 採用セシムルノ旨趣ナリ固ヨリ唯ニ家屋建築
 ノ方法ノミナ主トスルニアラス其所屬品ヲモ
 附加シテソノ全備セルモノヲ展觀セシムヘシ
 如斯全備セルモノヲ以テ示スハ其益蓋シ大ナ
 ルベシ
 從前ノ博覽會ハ特ニ家屋ニ關スルモノハ發明
 チ助ケサリシハ唯ニソノ物質或ハ製作法ノミ

ヲ示シテ其全備セルモノト及用法トヲ示サ
リシガ故ナリ然レモ今般ノ博覽會ニ於テハ家
屋内諸室割烹場窖藏其他家事ニ必用ノモノヲ
示シ以テソノ看客ヲシテ極メテ充分ノ展覽ヲ
爲サシムベシ
又此博覽會ニ因テ諸工匠ヲシテ己レノ知識ヲ
開カシムベシ
從前ノ博覽會ニ於テハ室内ノ飾リ物ヲ業トス
ルモノ其物品ヲ顯ハセシト雖モ其觀察人此ヲ
シテ博覽會ニ屬セザルモノトシ大ニ蔑視セシ

カ今般ノ博覽會ニ於テハ大工、指物師、室内ノ飾
リ物師、壁間ニ修飾スル人、食器匠等ノ諸工各其
業ヲ勵メ成功ヲ俱ニシ以テ己レノ工藝ヲ示ス
ヲ得ヘシ
又家屋ノ華美室内ノ便利ヲ重ニスルモノハ此
諸工匠ノ各業ヲ勵メ成功ヲ俱ニシ以テ之ヲ示
スヲ以テ衆人ノ好ム所ニアラストハセザル
ベシ
各國家屋ノ形狀ヲ顯ハシ其家事ニ便ナルモノ
ヲ示スヘシ即チ

第一 狭キ地面ヲ以テ住居工作集會等ノ諸室互ニ便利ヨク連合スルヲ主トスルノ配置

第二 建築ニ關スル脩飾及ヒ模様ノ方法但レ便利ヲ害セズ好尚ヲ盛美ニスルモノ

第三 室内ヲ煖メ光明ヲ取り及空氣ヲレテ新陳交代セシムルノ方法但レ家屋ノ便利及住人ノ健康ニ害アラズレテ經濟ニ基キシモノ

第四 厨所窖藏浴室衣服ノ洗濯及其乾燥所其他便利清潔ノ爲メニ要用ナル場所ノ形様

第五 各國家屋建築及家材等ノ工業但シ好尚ヲ盛美ニシ兼テ中等ノ人ニ適宜スルモノ

凡ソ建築及ソノ脩飾ニ至テハ中等ノ人ノ望ニ應スベキモノヲ採用スベキハ勿論ト雖モ全ク客房等ノ貴價ナル脩飾ヲ除クニアラス總テ工藝ニ關スルモノヲ顯スヘシ

第九號

工作及諸發明ノ沿革ノ記

千八百年代ノ形勢ヲ徵スルニ足ルベキ諸事ノ
 中最大ナル者ハ工作ノ日々進歩シ及新發明ノ
 陸續繼出スル事ナリ
 方今ハ昔時ニ比スレハ學術ト人生日用ノ事ト
 ノ關係甚盛多ナルヨリシテ僅々數十年間ニ都
 ナ品物ノ製造就中工作ノ進歩シタルヲ大ニ
 レテ且遠キハ古今獨歩ト云フモ虛言ニ非ス今

一例ヲ舉ンニ物ヲ製スルニ器械ヲ以テ人手ニ

代ヘシ事就中此變革ノ經濟政事及交際上ニ干

渉スル事ニ至テハソノ有益要用ナル事廣大ナ

レ共是纔ニ數十年間ニ爲シタル事ナリ又近世

壯大美麗ノ建築ヲ爲シ蒸氣ノ力ヲ用ヒテ深山

ヲ穿テ大澤ヲ越ヘ或土地ヲ切斷シ兩海ヲ合シ

テ舟楫ノ利ヲ通シ或沙漠ヲ變シテ沃野ト爲ス

等ノ如キハソノ盛大ナルヤ更ニ物ノ比スベキ

ナシ

然レモ己ニ世人ノ善ク知り屢バ稱スル事ヲ再

此處ニ演說スルヲ要セズ唯數事ヲ舉ゲハ則
當代ノ代千八百^年經濟上ニ有益緊要ナルヲ示ス
ニ足ラン
昔時ハ數百年ヲ經ルニ非レバ盛大ニ趣カザリ
シ工事モ今日ハ數十年ニシテ善美ヲ盡ス^テア
リ歐羅巴ヨリ亞細亞東南ノ國々へ輸送スル產
物ノ中此國々ヨリ出デシ元品ヲ以テ製造シタ
ル者尠ラズ然シテ其製造法モ却テ波示西亞東
印度等ニテ人手ヲ用ヒテ作りシ織物ニ優ル
當代人ノ主トスル說ハ數多ノ物品ヲ一時ニ製

造シ且廉直ニ之ヲ賣ルノ方法ヲ求ル事ナリ
平均シテ之ヲ言ヘバ方今人生ノ安樂漸々増加
シ隨テ人生ノ好尙求需モ亦相増シ且高雅ニ趣
キ世間ノ攝生法モ次第ニ進步シ既ニ數國ニ於
テハ人民平均ノ壽數ヲ長ゼシノ確證ヲ得タリ
然レ最政事交際上ニ關係スル事ハ勤勉ノ說ニ
シテ方今人々皆之ヲ尊フ故ニ勤勉ハ富貴名譽
ヲ得ルノ權理トナリ勤勉ヲ敬尊スル^テハ其成
ノ教育ノ徵證トナレリ
前文ニ記スル如キ文明開化ヲ得レバ一人ノ力

ニ非ス許多ノ英雄各盡力セシニヨレリ天稟ノ
才ニヨリ勤苦ヲ待タズシテ全備ノ説ヲ吐ク者
或數人戮力勤勉シテ一説ヲ大成セシ者アリテ
ソノ才智勞苦相合シテ以テ今日ノ盛美ヲ致セ
リ此輩ノ勞苦功ヲ終リシハ尙昨日ノ事ナレバ
世人ソノ姓名行事等ヲ知ル者少シ是唯一般ノ
文明開化ノミヲ見テ却テ之ヲ集成シタル各人
ノ功ヲ知ラザルト云フベシ萬國展覽會ハ唯現
今ノ事ノミニ限ルベカラズ宜シク過去ノ時代
ニ溯リ現今物品製産ノ盛美ナル所以ノ基礎ヲ

建テシ人々ノ功勞ヲシテ歴々千載ノ下ニ流傳
セシムルニ非スンハ遺憾ナシト云フベカラズ
萬國展覽會ハ元萬國ニ相干スル便利ヲ顯ハス
爲メナレハ都テ萬國人民相交リ相扶ケザルヲ
得ザルノ理ヲ證著スルニ足ルベキ物ハ悉ク之
ヲ網羅拾收スヘキハ言テ俟タズ然レテ此理ノ
最較著スルハ新發明及工作上ノ事物ニ於テセ
スレテ何ソ是今度此増加展覽會ヲ開ク所以ノ
大趣意ナリ
時好ト工作ト亦甚相關係スル者ニシテ時好ハ

人ノ一時ノ好尚ヨリ生スル者ナレモ亦自ラ定
 理ナレト云フヘカラズ凡人偶然或故意ニテ工
 作ヲ以テ時好ヲ變スルヲ得レ共時好モ亦能
 ク物品ノ製造ニ感及シ全ク時好ニ投合スル爲
 ノミニ物ヲ製スルヲアル等ハ人ノ善ク知ル所
 ナリ
 都テ二世或三世ヲ歴シ大工作場ヨリ此展覽會
 ヘソノ製作方ハ陳腐ニ属スト雖モ時好ヲ徵ス
 ルニ益アル諸産物或ソノ雛形ヲ差出スヲ得ベ

右ノ外此展覽會ヲ開ク所以ノ趣意一アリ即往
 時學問ニ長ゼン者或工作ニ名アル輩ノ其時迄
 人ノ知ラザリシ元品等ヲ見出シテ之ヲ製造ニ
 用ヒ始メ或製法ヲ潤飾シ工業ノ區分ヲ發明シ
 工作ヲ盛ニシ製法ヲシテ益々其目的ニ適合セ
 シメン者ノ功勞ヲシテ湮滅セザラシメント欲
 スルヲナリ此輩ノ行事ハ皆世人一般ノ幸福ヲ
 増セシナレバ今日ソノ遺澤ニ浴スル者宜シク
 之ヲ骨ニ銘シテ忘ルベカラズ
 第一 前ニ記スル所ニ從ヒ此增加展覽會ヘ

ハ工作及諸發明ニ關涉スル書類ヲ差
出スベシ

工作ト發明トハ相關シ相連ナルヲ甚密ニシテ
之ヲ區別シテ二類トスルヲ得ス
方今工作ノ沿革ヲ記述セントスルニ之ニ關ス
ル發明ヲ併記セザルハ更ニ解スベカラザル事
トナレリ
昔時工作ニ關スル史記ヲ述シトスル時ハ重モ
ニ工人ノ會社ノ編立法及其風習等ヲ論セシガ
當今ハ此會社ヨリシテ交際上ニ波及セシ奇異

ノ制度等ハ皆此會社ノ法ト共ニ地ニ墜ナタリ
故ニ當今工作上ノ史記中ニハ昔時ノ如ク奇異
ノ事ヲ載セズ然レ製作方ヲ詳説シ元品及附屬
品ヲ明示シ屑餘ヲ以テ物品ヲ造出スル法ヲ細
釋スル等ノ事アル故昔時ニ比スレバ記述却テ
深奥ニ涉レリ方今ノ史記ノ緊要ナルヤ前古無
比ナル所以シハ百般ノ器械動機等ノ論説及ヒ
工人ノ經濟ノ有様產物製造ノ肝要ナルノ論説
等ヲ記載スルヲ以テナリ
昔時ハ史記中重モニ風習ヲ論ゼシガ方今ハ經

濟上ニ干係スル事及學術上ノ新發明ヲ以テ史記ノ最要ナル條件トス
却テ工作ノ進歩ヲ載セサル史記ハ脉絡貫通セズ人之ヲ目シテ不備ト爲ス
然ノミナラズ多ク新發明ハ工作ト相關スルニ非ンバ實地上ノ價位ヲ得ス唯工作ハ發明ヲシテ盛大ナラシムルヲ多シ

第二 此展覽會ノ及ブ時代ハ蒸氣機關ノ發明ノ時ニ起ル其間殆ト一紀ナリ
斯ノ如ク時代ヲ定メシハ此展覽會ヲ開クノ基則

ニ於テ然ラザルヲ得ズ其故何ソ當今ノ工作ハ蒸氣機關ニ基クニ非ズヤ蒸氣機關ハ此工作ノ進歩ヲ起セシ者ナラズヤ之ヲ稱シテ方今開化ノ根本ト云フモ亦可ナラズヤ

第三 此増加展覽會ノ品物列置方ハ一般陳列法ニ應ズベシ

第四 此展覽會ノ諸番号ハ一般陳列法ノ各區内ニ於テ左ノ如クタルベシ

ア号 諸器械機關ノ實物或雛形或工作法ノ次第ニ進歩完備セシノ順序ヲ示

スベキ製造方ノ記述

ベ号 時好ハ工作ニ感及シ工作モ亦時好

ニ感及スルノ明瞭ナルヲ徴スル産

物

セ号 新工夫ノ經濟法或工作法ヲ用井テ

功ヲナセシ事ノ記述

デ号 往時人ノ知ラズシテ當代ニ至リ製

造ニ用ヒ始メシ元品並附属品ノ實

物或雛形

第五 右番号ニ屬スル物品ヘハ畧解ヲ附シ

之ヘ功業ヲ立テ名譽ヲ得シ輩ノ姓名
畧傳ヲ載スベシ

第拾四号

萬國古昔ノ物品聚集ノ事

萬國博覽會ヲ設ケ以テ今日學術工業ノ進歩ヲ
普ク觀察シ見智ヲ開カシメント欲ス斯レ此ノ
眼目トスル所ナリ故ニ一般ノ大博覽會ノ側ニ
更ニ一館ヲ造リユヽニ往古固有ノ奇物ヲ蒐集
レ方今百事盛大ノ景況ニ及ホスカ如ク時勢漸

ク沿革アレハ隨テ百工技術モ亦タ開化ノ運ニ
 至ル宜シク有志ノ士ヲシテ此ノ如キ趣旨ヲ覺
 ラシムベシ此館内ヲ巡見シ以テ往古ノ工業技
 術ノ景況ヲ覺知シ方今ノ形勢ニ比較スレハ或
 ハ注目スヘキ物アリ或ハ慰勞ヲ成ス物アリ故
 ニ必ス有志ノ輩ニ大利益アラシムベシ
 故ニ此博覽會ヲ設クレハ實地文明開化史ヲ再
 ヒ鑑讀シ古昔ノ事情ヲ顧見スルト謂テ可ナリ
 此博覽會ノ爲メ聚集セントスル物品ハ東洋ノ
 諸國ニ至ル迄太古中世ノ産物ヲ蒐集スルカ故

ニ其數最モ夥多ニシテ計リカタシ
 故ニ斯博覽會ハ只ニ往古諸術ノ方法ヲ展觀セ
 シメ智巧ノ可否ヲ論キシムルニアラス冷ク百
 工技術ニ志シアル者ヲ補助スルヲ以テ大眼目
 トスルナリ
 此企望ヲ全セント欲セハ務メテ許多ノ工作物
 品ヲ聚集スルヲ第一トス故ニ古ヨリ今世ニ至
 ル迄ノ開化ノ次序ヲ注意セシメ殊ニ有志ノ看
 客ニ益スルヲ最モ大ナリト云ベシ
 前ニ言フ所ノ集合セント欲スル品物ハ固ヨリ

美麗ヲ選フニアラス遍ク往古ノ物産ヲ展列セ
ンメントス然レモ大概左ノ目錄ヲ以テスベシ

- 第一 スパルト製法ノ物
- 第二 組織物及其畫圖
- 第三 漆物類
- 第四 燒畫具ノ類
- 第五 嵌鑲細工類
- 第六 硝子ノ上畫物
- 第七 寫本及上版シタル物
- 第八 綴書籍類

- 第九 皮製ノ物
- 第十 花器及硝子具
- 第十一 陶器
- 第十二 彫刻ノ木器
- 第十三 象牙角蠟塗物及玩物
- 第十四 雜小品及彫刻蠟石ノ類
- 第十五 銅亞鉛黃銅鉛ノ器
- 第十六 鍛鐵ノ製造物
- 第十七 掛時計ノ類
- 第十八 青銅物

第十九 金銀細工物

第二十 寶石ノ類

第二十一 金屬及礦石ニ彫刻セル物

斯ノ如キ品物ヲ輸入シ又ハ展列スル方法ノ如キハ之ヲ依頼スレバ必然教諭ヲ成ス事アルベシ

右博覽會物品等ヲ威府ニ輸入スルハ一千八百七十三年第二月一日ヨリ第四月十五日ヲ期限トセリ

第十五号

童子成育學生教育民間告諭ノ部

抑百工ノ起ル所以ハ人才ニアリ又人ノ世ニ生活スル是ヨリ貴キハナシ是以テ國民互ニ相競ヒ各智識ヲ開キ人倫ノ道ニ長センヲ欲スサレハ童子成育學生教育民間告諭ノ如キ此三ノモノハ博覽會中第一等ニ位スルモノニ屬セリ今茲ニ第二十六區ヲ分テ三部トス

第一 童子成育ノ部

此部ニ於テ展觀セシムヘキ物品ハ總テ是ヲ童

子館(即博覽會中)内ニ聚集スヘレ然ト云ヘト
 七無形ニ属スル者即チ攝生法童子死生ノ員數
 孤子棄子ノ教育院及ヒ童子ノ教育院ノ如キハ
 或ハ記事或ハ圖畫ヲ以テ此部中ニ之ヲ示ス
 次ニ体操術ヲ示スニハ其方法ト器械トヲ以テ
 尤モ此術ハ武器ノ使用等ニ關係スレハ少年
 ノ輩ニハ欠クヘカラサルモノナリ

第二 學生教育ノ部

此教育ニ關係セルモノ、展觀ニ於テハ小學中
 學大學ノ諸校而已ナラス總テ農學樹林學鑛山

學工學商法學等ノ專門校ニ關涉スルモノヲ示

ス

其順序ハマゾ諸學校ノ地所ヲ選ムヲ始メトシ
 次テ雛形ヲ作りテ學校ノ建築ヲ示ス事獨リ小
 學校ニ於テ切要トスル處是國中人民一般ニ關
 係シ最切要ノモノナレハ也
 他ノ諸學校ニ於テハ縮小圖ヲ以テ便覽ニ供セ
 ハ其益大ナルベシ

但シ大學校ハ百分一中學校ハ五十分一ノ
 縮小圖ト爲シ其校内ノ總建物及ヒ園庭ハ

二百分一ニ之ヲ製スヘシ尤此圖ノ大サハ
長二十五センチメートル(一)ハ我曲尺凡三
分(三)高サ十八センチメートルトス

學校ノ器具ハ此展觀中最切要ノモノトス往時
ハ唯學校ノ室内空氣ノ新陳交代等ニ就テ健康
ニ害アルヤ否ニ注意セント云ヘトモ今日ニ至
リテハ學校ノ器具生徒ノ腰掛椅子文庫其他讀
書ノ器具等ニ至ルマテ總テ注意スルヲ要スル
カ故實物或ハ畫圖ヲ以テ之ヲ示シ其可否ヲ取
捨セハ裨益尠カラズ因テ此器具亦學校ノ建物

ニ附加シテ以テ之ヲ示スヘシ

凡教育ノ法ニ至ツテハ左ノ物品ヲ觀察セシメ
博覽會ノ一大益トナルヘシ則テ

一 教授書

但シ各國ヨリ多ク此書ヲ出サム事ヲ欲
ス

二 習字習畫ノ臨本加ルニ其改正ノ件々

三 習字習畫ノ器械又其種々ノ用法

四 生徒所用ノ小地圖其他字書類

次ニ諸學校ノ文庫ニ藏蓄セル古書類ノ目錄並

ニ其書中ノ大意ヲ摘テ其有益ヲ記セルモノヲ
 出サハ教師タル人ノ智識ヲ開キ萬國ニ於テ最
 切要ナル教育ノ進歩ヲ勵マスベシ
 素ヨリ教授ニ要用ナルモノ舉テ數フヘカラス
 ト云ヘトニ就中切要ノモノヲ左ニ掲ク則テ
 第一 總テ小學校ニ於テ教授ニ必用ノモノ
 第二 積方ノ教授ニ用ウル器具
 第三 習字習畫ノ教授手本ヨリ早書ノ教授
 ニ用ウル者並ニ銅線製ノ手本遠景ヲ
 顯ス畫法ニ至ルマテ

第四 算術教授ニ取用ノ者タトヘハ平方立
 方ヲ測ルニ用ウル諸具
 第五 寫景學風土學人種學歴史學國政學ニ
 關セル地圖並ニ海圖其他彫刻セル地
 圖地球儀
 第六 地理歴史ノ教授ニ必用ノモノ
 第七 博物學結晶論地質學本草學植物學動
 物學珠ニ人獸ノ身體論ニ關シ切要ノ
 モノ其他ソノ繪圖記文
 第八 究理學數學星學ニ關シ肝要ノ者並ニ

其繪圖記文就中校中究理學ニ用クル
器械

第九 舍密所ノ圖舍密教授ノ爲切要ノモノ
及ヒ其記文

第十 橋堤其他ノ諸建築術教授ニ緊要ノモノ
並ニ其繪圖記文

第十一 農業經濟學工學商法學等ノ授業ニ肝
要ノモノ並ニ其繪圖記文

第十二 彫刻術奏樂等ノ教授ニ於テ緊要ノ者
及ヒ其繪圖記文

其他總テ學生教育ノタメ有益トナルヘキ繪圖
記文モ亦之ヲ示サハ其裨益多カルヘシ

次ニ授業ニ就キ其進步ノ事跡ヲ展觀セシムベ
シ元來此進步ハ精神ニ關係スル者ト雖モ一年
間生徒ノ受シ課業試問ノ答書ヲ舉テ之ヲ示サ
ハ其進步ヲ見ル甚難キニ非ス但シ此試問ノ答
書ハ未タ教師ノ改正ヲ經サル者ヲ取テ博覽會
ニ出スベシ

第三 民間告諭ノ部

獨リ諸學校ノ教育而已ナラス尙教育ニ關係シ

大ニ國民ニ裨益ヲナス者アリ則チ毎日新聞、書
 林其他教訓社等是ナリ
 故ニ千八百七十二年中ニ發閱セシ各國ノ新聞
 紙ヲ觀察セシメハ新聞紙ノ増加或ハ其驗効等
 最モ明白ナルベシ又各國新聞紙ノ提並ニ千八
 百五十一年以來新聞紙ノ増加セシチ巨細ニ記
 載セル目錄ヲ此展觀所ニ出スヘシ
 次ニ方今世ニ極メテ流行セル風說書ノ類ヲ列
 セムコトヲ欲ス則チ各國千八百七十二年中ノ
 風說書ヲ博覽會ニ供セハ教訓ノ一助トナル事

多カルヘシ

總テ各國ニ於テ千八百七十二年刊行セシ書籍
 或ハ地圖ヲ全ク聚集セシコトヲ欲スルニ非ス
 唯近世ニ至リ發閱セシ書籍ノ目錄且外國人ト
 賣買セル書籍地圖或著述人ノ賣却セシ者ノ記
 文等總テ之ヲ各國ヨリ出スチ乞フ蓋シ此目錄
 ハ獨逸國ニ於テ六月毎ニ發行セルヒレリツ
 フ氏ノ書籍目錄ニ倣テ之ヲ記スヘシ
 前條ニ次テ學術技藝ニ關セル者ヲ並列スベシ
 凡ソ博物館其他總テ庶民ノ展觀ヲ許セシ諸館

ノ記事或ハ其繪圖ヲ博覽會ニ出サントナ欲
ス但シ其記文ノ体裁ハ千八百六十七年伊多里
亞國フロランス記文會議ニ於テ採用セル巨細
ノ雛形ヲ送レルガ故各國ノ博覽會事務官務メ
テ之レニ倣フテ記ヌヘシ
専門科或ハ普通科ノ爲ニ設シ教訓社モ之レガ
記事ヲ出スベシ尤モ其社中ノ人員(即チ千八百
七十二年ニ
於チノ員)其財本及歲出入等ヲ詳ニ示サント
ナ乞フ是則テ博覽會ノ目的ニ満足スルノ一事
ナリ

前條ノ体裁ヲ務メテ一定セシメンカ爲其雛形
ノ表ヲ此文ニ附ヌ又教訓社ニ於テ年來ノ入費
ヲ刊行シ之ヲ著セシ者アラハ是レ亦出スベシ

第十六號

童子館

一千八百七十三年威府ニ設立セル博覽會ニ於
テ宇内ノ最モ巧奇トセル物品ヲ集合セサレバ
全ク萬國博覽會ノ業ヲ成スト謂フ能ハス就中
諸國人民ノ最モ慈愛セル兒童ノ情態ニ緊切ナ

ル事ヲ缺クニ於テハ豈萬國博覽會ト稱スルヲ
 得ンヤ於此博覽會長事務掛シユールヒルス氏
 ノ建言ニ從ヒ人材教育ノタメ設ケタル本部ノ
 博覽場ニ整列セシ物品即テ二十六區中ニ就テ
 兒童ノ未ダ學ニ入サル者ニ關係アルモノヲ分
 取シ之ヲ並列シテ以テ別ニ枝葉ノ一館ヲ設ケ
 タリ然ハ則一千八百七十三年ヲ以テセル此威
 府ノ博覽會ニ於テハ管ニ新奇ノ物品ヲ求ルノ
 ミニアラズ又童蒙教育ニ關スル百般ノ品類ヲ
 整排展列スルカ爲ナルヲ知ルヘキナリ即テ此

館ヲ以テ童蒙初業ノ所トシ其整排セル諸品ヲ
 示シテ以テソノ目ヲ養ヒ其氣ヲ振ハシメ又常
 ノ童子遊戲ノ場所及ヒ房舍等ノ景況ヲ模造シ
 テ以テ其巡覽ノ勞ヲ慰セリ

此分館ヲ以テ童子館ト名ク是レ前記スル如ク
 特別ニ設置セル分枝ノ館ニシテ獨リ兒童ノ巡
 覽ニ供スルカ爲メノミナラス又能ク婦女ノ輩
 ナシテ諸國人民ノ開化ヲ曉知シ人族自ツカラ
 品級アリテ其教育ノ方法異同アル所以ヲ目視
 意解セシム加之男子ト雖モコノ館ヲ巡覽スレ

ハ大ニ其勞ヲ慰シ又其景狀ヲ記憶セハ歸後必
 ス親族明友及自家兒童ノ居所等ヲ設ルニ善法
 ナ得ルアルヘシ
 此ノ博覽會ノ部分ハ童子ノ教育ヲ主トシ即チ
 其僅ニ學校ニ入ルノ年齢ニ至ルマデノ最モ弱
 齡ナル者ノ爲ニ設タルカ故ニ只其智識ヲ廣メ
 及ヒ其身體運動等ニ關スル物品ノミヲ取テ殊
 ニ此ニ整列セリ

第一ノ列品

父母ノ住家ニ於ル童子ノ房舎器具及其整備ノ

狀

童子ノ房舎設置ノ模様衣類飲器ソノ他附属ノ
 物品及ヒ其兒ノ危難ヲ避クル爲メ父母殊ニ護
 視セスシテ之ヲ家中ニ放チ置キ瞬間不在ノ豫
 備方ヲ設ル狀

樂音ヲ聽知シ彩色ヲ區別シ手足ノ運動ヲナシ
 或ハ才氣ヲ廣ムルガ爲ニ便ナルモノ等凡ソ五
 官ニ關スル一切ノ玩器教導ノ初業タル伊呂波
 文字算用板樂器書籍類及ヒ房舎ノ壁上ニ揭示
 セル告諭文書ノ体

身體形狀ヲ正フシ言語ノ啞澁ヲ拒クカ爲メニ
 示セル寫真圖畫像等ノ列品ソノ他旅中兒童ヲ
 守護スルニ付テ種々ノ方法ヲ顯ハスノ圖
 弱齡ノ童子母或ハ乳母ノ乳汁不足ナル時コレ
 ナ補ヘルモノ及ヒ兒童養育ノタメ緊要ナル飲
 藥丸藥ノ類

第二ノ列品

此分館ニハ畫圖及寫真圖ヲ作ル所孤子棄兒ヲ
 教育スル所浴室花園其他童子游樂場等ノ圖ヲ

コノ博覽會ニ付テ各國隨意ニ物品ヲ列スルコ
 ナ得ヘシト雖モ一律ニ整列シ觀客ヲシテ目ヲ
 投シ易カラシムル爲メ館内童子ノ房舍ゴトニ
 殊ニ財具ヲ加ヘ數多ノ場所ヲ分ツ然レモソノ
 室内ニ列スル物品ハ別ニ場所設定ノ上ハコレ
 其場所ニ送致センコトヲ報知スヘシ但シコノ條
 々決定ノ爲メ殊ニ集會ヲ催ス事アル可シ

童子館

童子館ノ展覽會ハ童子ノ身体日用諸事物ノ全

體ヲ示スヘシ歐洲各國ヨリ此展覽會ニ差出ス
 べき物品ノ撰擇方ハ務々テ全ク其國々ノミニ
 テ用ウル物品ノミニテ採取スルヲ肝要ナリ是此
 博覽會ヲシテ成ルべきタケ全備セシメ且各國
 ノ物品種々相異ル處ヨリシテ更ニ一段ノ興趣
 ナ増サシメントスル爲メナリ故ニ左ニ記スル
 物品ノ區分ニ注意スベシ

第一 童子ヲ起臥行歩セシムル器械歐土ノ
 襁褓ニ類スル物童子ノ臥床車附ノ椅
 子童子ノ車及母タル者童子ヲ抱クノ

方法

但成ルベキヲ出スベシ
寫真圖書等ヲ出スベシ
寫真圖書等ヲ出スベシ

第二 七歳以下ノ童子ノ衣服類及幼年ノ童
 子ノ飾リニ用ウル玉石類

第三 童子ノ室ニ附スベキ諸道具就中家内
 ニテ童子ノ爲メ用ウル物品即飲食器
 小ナル椅子籠篋等ノ類

第四 七歳以下ノ童子ヲ娛シマシメ或之ニ
 身体ノ運動ヲ教ヘ又重モニ物ノ形容
 色彩聲音ヲ知ラシムル爲メニ用ウル
 諸玩物類鞦韆「クリケット」推シテ鳴ラ

氣球獨樂童子ノ樂器建築ノ器械諸職
 工ノ道具木作ノ禽獸萬物學ニ關スル
 物品小ナル馬車車ニ駕スル馬等童子
 ノ「ソシエター」ノ遊骨牌智恵板將碁類
 「トリクトラツク」ノ遊名賽

第五 畫入り獨逸以魯波文字ヲ用イ及其他
 以魯波ノ書籍ヲ用イテ童子ニ小學ヲ
 教ウルノ方法算數ヲ教ウル方臨書ノ
 道具即石板鏡筆石筆就中畫本童子ノ
 短歌及遊戲ノ時用ウル歌

第六 童子ノ身体日用ノ諸事物ニ關スル民
 間ノ圖畫

第四十三號

千八百七十三年五月卅一日ヨリ六月九日
 迄牛羊豕野牛驢馬騾展覽ノ部

第一章

總テ獸類到着セバ博覽會ニ附属セル獸畜
 醫ノ検査ヲ受ヘン

第二章

右醫師之ヲ點檢シ若シ病獸アルトキハ其
 醫ノ命令ニ從ヒ別ニ設タル場所へ移シ置
 ク歟或ハ博覽會場外へ出スヘシ
 右病獸ノ療養方ヲ司ル者アルガ故ニ若シ出品
 人之レニ委任スルヲ望マバ其費用ヲ附シテ
 之レニ托スヘシ

第三章

我事務局ニ於テハ務ヲ展覽ノ獸類ニ注意
 スト雖モ然レモ之レニ疵傷等アル決テ其
 責ヲ受クルノ理ナシ

第四章

獸類ニ食物ヲ與ル時限ハ午前五時ヨリ全
 八時迄同十一時ヨリ午後一時迄全六時ヨ
 リ全八時迄トス

第五章

我事務局ニ於テ右食物縱令ハ草葉及搗碎
 セル穀物等ノ上好ノ品相當ノ價ヲ以テ現
 金或ハ番人ノ請取證書トノ引替ニテ之ヲ
 賣渡スヘシ
 但シ賣渡シ時限ハ毎日兩度即チ午前六

時ヨリ七時迄及午後六時ヨリ七時迄

第六章

番人ナルモノハ殊ニ獸類ニ注意シ及ヒ其食物ヲ飼給スルノミナラズ獸類ノ居所ヲ務テ清淨ニスヘシ

第七章

右番人其國風ノ衣服ヲ着シ博覽會展觀中午前九時ヨリ午後六時マデ出務スベシ觀客來ラハ必ラス懇切ニ之ヲ先導スルヲ要ス

右番人ハ都テ検査掛リノ命令ニ從フベシ無法ノ行ヒアル歟或ハ規則ヲ破リシモノハ検査掛ノ命令ニ從ヒ直ニ博覽會場外へ出スベシ猶患者タルノ番人ニ於ルカ如シ其代人ハ出品人ヨリ之ヲ出ス迄ハ我事務局ノ人員ヲシテ姑ク之ニ充ツベシ

第八章

右番人等博覽會場近傍ノ割烹店ニ於テ定價ヲ以テ美食スルヲ得ベシ

第九章

獸類ノ展覽場ニ於テ烟草ヲ喫スルヲ禁止
ス猶博覽會場中他區ニ於ケルカ如シ

第十章

苦情ヲ述ント欲スルモノハ獸類展覽ニ關
係スル所ノ事務局ニ至テ其由ヲ陳述スベ
ク否ラサレハ苦情簿ト稱スルモノニ之ヲ
記載スベシ
項々タル苦情ハ検査掛之ヲ裁決スト雖モ
重大ナル苦情ニ至テハ獸類展覽事務局
總裁ト共議シ以テ之ヲ裁斷ス

總裁 バロン シュハルトセンボロン

第四十四号

博覽會ニ于スル著大ノ事件決定ノ年月及
ヒ開場中諸品展觀ノ期限
國帝ヨリ萬國博覽會ヲ施行スヘキノ降命
千八百七十年五月二十四日
博覽會總裁撰任
千八百七十一年一月九日

博覽會費用ノ定額金ヲ決定シタル法令ノ布告
千八百七十一年七月廿一日

博覽會事務ノ開局

同 八月一日

博覽會事務官撰任及ヒ事務官ニ關係シタル規則ノ布告

同 九月十四日

事務官第一回ノ會合

同 九月十六日

博覽會諸規則ノ布告

同 十月四日

會場及其園圃ノ圖面ヲ澳國事務官及外國事務官ニ送リシ事

千八百七十二一年一月十五日

外國事務官ノ所要場所ノ面積ヲ總裁ニ報知ス
ヘキ事

同 五月一日

博覽會送品運輸ノ賃銀減少ノ事ヲ外國事務官ヨリ總裁ニ通告アリシ事

同 同

會場ノ面積ヲ各國ニ分割セシメテ外國事務官ニ布告ノ事

同 七月一日

出品許可ノ期限ヲ澳國各郡ノ事務官ニ布達セシムル事

同 同

運送會社トノ協議ニヨリ物品運輸ノ賃銀ヲ減少セシムルヲ總裁ヨリ布告セシムル事

同 同

澳國事務官ヨリ出品人ノ名簿ヲ總裁ニ送ルノ

期限

全 八月一日

類區ヲ記載シタル列品ノ圖面ヲ澳國及外國事務官ヨリ總裁ニ送ルノ期限

全 九月一日

澳國出品人ニ出品許可ノ證書ヲ送リシムル事

全 九月三十一日

外國出品人ノ名簿及列品ノ位置ヲ示シタル精細ノ圖面ヲ總裁ニ送ルノ期限
千八百七十三年一月一日

澳國及外國事務官ヨリ出品目錄編製ノ爲メ必
要ナル說解ヲ總裁ニ具狀スヘキ期限
全 全

本館外ノ地ニ家屋等建築ノ爲メ所用ノ地所ヲ
乞ヒ求ムヘキ爲メノ期限
全 一月三十一日

會場中ニ於テ諸荷物ノ收取方及ヒ之ヲ開ク
全 一月一日ヨリ四月十五日マテ

博覽會ヘ陳列ノ物品ヲ收取スルカタメ大ナル
趣向ヲ爲スヘキ期限

同 二月十五日

博覽會出品ノ陳列

同 一月十五日ヨリ四月廿五日マテ

獸類ノ陳列ヲ許可スヘキ期限

同 二月廿八日

展覽會及園圃一般ノ掃除及檢査

同 四月廿六日ヨリ廿九日マテ

種馬ノ陳列ヲ許可スヘキ期限

同 四月三十日

博覽會開場

和名

洋名

同 五月一日

第一回百花ノ展覽及ヒ温室内ニテ熟セシメン
菓物及貯藏シタル菓實ノ展覽

千八百七十三年五月一日ヨリ十日マデ

豕羊及牛驢馬等ノ展覽

同 五月三十一日ヨリ六月九日マデ

第二回百花及櫻實ノ展覽

同 六月十五日ヨリ二十五日迄

第三回草花ノ展覽早熟梨梅ノ展覽

同 八月廿日ヨリ三十日迄

第四回草花林檎等ノ展覽

全 九月十八日ヨリ二十三日マデ

苗木ノ展覽

全 十月一日ヨリ十五日マデ

野獸ノ展覽

全 十月一日ヨリ十五日マデ

博覽會閉場

全 十月三十日

博覽會陳列ノ物品并諸裝飾物撤去スベキノ期

限

全 十二月三十一日

博覽會場ニ遺殘セル物品ノ賣却

千八百七十四年六月三十日

千八百七十二年三月一日於アラ

アルストラツセ

博覽會總裁

ハロンレユワルツセンボルン

第五十号

軍事ノ部

方今學術進歩ノ發明日々ニ新ニシテ其裨益大ニ軍事ニ感及セリ故ニ武器裝具等モ亦改正セラルヲ得ス

又財本動作共ニ活用シ業ヲ營ム事曠ク世ニ行ハシ庶民ニ至ルマテ勉勵協力造兵シテ大ニ軍事ノ助ケトナシテ事ハ世人ノ能ク知ル所ナリ歐洲各國ニ於テハ全國募兵ノ法ヲ用ヒ軍制斯ニ一定シ既ニ大成ニ至リテ以テ彼ノ因循安ヲ倫テ僅ニ今日ヲ送リテ遊惰ノ國ト雖モ爲ニ鼓舞セラレテ奮然興起スルニ至レリ

又方今到ル處諸官省ノ定額金ヲ公然相議セシ
ムルニ因テ軍事ノ定額金ヲ知ルヲ得世人一般
ニ武器軍制等ニ意ヲ注ムルヲ以テ政府人民ノ
目ヲ偷ム能ハス是レ大ニ軍勢ヲ盛大ニスルノ
一助トナレリ
故ニ近世ノ軍事ニ關スル物品ヲ湊集排列レ之
ヲ萬民ニ示サハソノ人ニ裨益アル事猶他物品
ノ展觀ニ於ルト異ナルナキカ如シ
軍事物品展觀所ニ於テ衆人ニ展見セシメント
欲スル者ハ博物館等ニ秘藏セル彼往古ノ廢物

毀品ノ如キモノニアラス方今現ニ軍事ニ採用
セル物品及ヒ其方法ヲ虛飾ナク明ニ示サン
テ欲ス是則今日軍務ノ一助タルヘシ
只ニ古代器物無稽ノ臆說ヲ示サンヨリ歴然タ
ル諸國ノ軍制及戰具ヲ展スルニ於テハ其智識
ヲ廣ムル事更ニ多カルヘシ
然レモ方今進歩是勗ムルノ日ナルヲ以テ凡ソ
世用ニ關スルモノハ新古ヲ論セス悉ク並列レ
千八百五十一年以來發明ノ者ヲ展見セシムル
事猶他ノ物品展觀ニ於ケルカ如シ

故ニ方今採用シテ貴重セル軍事一切ノ所用物
ハ悉ク之ヲ羅列ス而シテ水雷火ノ如キモノハ
其試檢猶未タ充分ナラス又大軍ヲ指揮スルニ
欠クベカラサル戰場ノ電報法ニ於ルモ其試檢
實ニ今日ニ要スルモノナリ
今日ノ軍事物品ヲ羅列スルニハ宜ク軍隊編成
ノ順序ヲ履ムベシ
故ニ先ツ國ノ軍制募兵ノ法ヲ創立セントセバ
須ク地圖或ハ繪圖ヲ作り以テ鎮臺設置ノ方
ヲ圖ハシ又諸國開化ノ形勢ヲ示スヘシ

次ニ兵士ノ被服裝具糧食等ハ附屬ノ物品又ハ
切要ノ繪圖ヲ以テ了解スヘシ糧食ノ展觀等ニ
至テハ固ヨリ軍事經濟ノ爲ニ裨益アルモノナ
リ
兵士被服ノ次ニハ武器并出陣中要用ノ諸器具
ヲ羅列スベシ砲隊ヲ此武器中ニ列スル事固ヨ
リ當然ナリ
軍隊ノ武器ハ其實物ノ見本トシテ銃炮ヲ示シ
彈藥ヲモ之ニ附スヘシ蓋シ彈藥制法等ハ其製
造機械ヲ熟觀シテ之ヲ知ルヘシ

砲隊ノ展見ニ於テハ實物ヲ以テスト雖モ其軍
用ノ列車ニ至テハ形ヲ以テ之ヲ示シ且彩色
ノ寫真圖或ハ繪圖ヲ以テ其列車ノ使用ヲ示ス
テハ他所ニ於ルト異ナルナリ
工兵ニ於テハ其使用ノ器具ヲ展見セシメ或ハ
寫真圖ヲ以テ其用法及運送法ヲ示シ又工兵ノ
爲セル築造方ハ形ヲ以テ明ニ之ヲ觀スヘシ
野戰ノ器具築造ハ之ヲ一部トシ又攻圍ノ器具
築造ハ別ニ一集シテ區分スルヲ便宜ナリ
近世ノ建築術ヲ以テセル造築ノ繪圖如クハ

海軍省

海軍省事務局

形軍用ノ電信機陣中ノ暗號及ヒ水雷火等ノ展
觀ハ工兵隊士官ノ爲ニ最モ裨益アルヘシ
武器裝具ノ後ニ軍事教育法ヲ示ス即チ法令及
學生ノ日課ヲ揭示シ以テ兵卒ノ教則兵學校ノ
編成士官ノ教授課程等ヲ詳觀セシム此一部モ
亦比較研究ノ爲メ一大益ナルモノナリ
次ニ軍事ニ關スル寫景ノ地圖ヲ列ス
最尾ニ於テ兵隊ノ衛生法及好良ノモノヲ顯示
スヘシ
此良法ハ獨リ兵隊ノ爲メノミナラス實ニ國家

ノ安全ヲ謀ル有益ナルモノナリ
兵卒ノ疾病創傷等ニ罹ルモノヲ救ハント要シ
十年以來有志ノ者社ヲ結ンテ衛生法ヲ施セリ
是近代ノ戦争ニ於テ著シキ効績アリシモノナ
リ其社員中此兵隊衛生法ヲ博覽會ニ示サンコ
ト乞フ者アリシガ是レ澳洪兩國ノ兵隊ニ關ス
ル衛生法ヲ集ムルノミナラス凡ソ出品セル諸
國相與モニ此博覽會ヲ行フノ旨趣ナレハナリ
右衛生物品ヲ一々亮示センカ爲メ自由便宜ノ
場所ニ於テソノ展觀所ヲ設ク

各國ノ衛生物品ヲ比較シ可否取捨レテ以テ此
法ヲ一定セント欲ス是人愛ニ於テ決テ欠クヘ
カワザル最切緊要ノ事件ナリ

第五十五号

女工ノ事

第二十六區教育ノ部ニ屬ス

第一婦女ノ製作品ノ展覽會ニハ都テ女工ニ關
スル物品ヲ網羅シテ漏ラヌ所ナレソノ區分ヲ
左ニ掲ク

第一 官私ヲ論セス總テ女學校ノ展覽

第二 女工ノ展覽但萬國ノ貿易ニ用ヒ

ス只國中一般或其地某郷ノ婦女
家内ニ於テ製スル物品

第三 女子ノ營ム工業ヨリ生スル物品

ノ展覽即白地或色彩ノ縫箔或繹
花ノ製造及其他女子ノ營ム工業

ニ屬スル物品

但此物品ハ職業ノ爲メ或自己
ノ好尚ニ由リテ作レル其別ト

第四 醫學遊藝其他都テ此ノ如ク技藝

ニ關スル工業ニ付キ女子ノ製セ
ル物品ノ展覽

第五 文章著述ノ展覽

第二此博覽會ヲ開クノ趣意ハ悉ク女子ノ勤勞
ヲ顯ハシ女工ノ學術國益技藝文學ニ干係スル
ノ重キヲ示シ以テ後來婦女ノ教育ヲ改革スル
ノ基本ヲ建ツルニ在リ

第三此類ヲ區別合成スルニハ萬國各ソノ適宜
ノ方ヲ用ユベシ澳國出品者ノ爲メ定メ所ハ
左ノ如ク

甲 維也納府ニ於テ博覽會事務掛ノ教育課へ一箇ノ議會ヲ附属セシメタリ此議會ハ男女多少ヲ以テ組立テタル者ニシテ左ノ五條ノ規則ヲ立ルヲ司ル

第一 女學校展覽ノ規條

第二 婦女ノ家内ニテ製スル物品展覽ノ規則

第三 女子ノ營ム工業ヨリ生スル物品展覽ノ規則

第四 婦女ノ製造ニ出テ、工作ニ用ヅ

ル美術ニ属スル物品展覽ノ規則

第五 女子ノ文章著述展覽ノ規則

乙 此規條ハ諸博覽會事務掛就中ソノ教育課ニ於テ事務ヲ施行スルノ基トナスヘシ前條ニ記スル女工展覽會ノ本議會ハ教育課ノ附属議會トシテ事務ヲ處スルガ如ク諸博覽會事務掛ヘモ各別段ニ一箇ノ議會ヲ附属セシメ是ヘモ婦女ヲ出席セシムベシ

丙 女工展覽會ヘハ審査掛ノ許可ヲ得シ物品ニ非ザレバ差出スヲ許サス斯ノ如ク審査

掛ヲ置カザルヲ得ザルノ原由ハ第一學校ヨリ出テタル著述等ノ無益ニ重複スルヲ防キ第二女子ノ家内ニテ作ル物品及ソノ營ム工業ヨリ生スル物品展覽會ニ於テハソノ物品ノ實ニ國益技藝ニ大關係アルヲ歴々昭著ナラシメ第三技藝ニ關スル工業ノ展覽會ニ於テハ善美ナラス或全ク價ナキ物品ヲ見別シ第四婦女ノ文章著述ノ展覽會ニ於テハ誤解ヲ生スベキ事件ヲ禦ク爲メナリ

第四維也納府本議會ノ最初處スヘキ事務ハ六月末ニ之ヲ了シ國々地方ノ博覽會事務掛ノ事務ヲ施行スルハ六月第一日ニ起リ九月々末ニ了ス本議會ハ十月ニ至リテ再ヒ事務ヲ處シ始メテ以テ此博覽會惣休ノ事務ヲ分理決定ス

第五維也納府ニ在ル博覽會本議會ハ六月初旬ヨリ九月下旬マデノ間「バツス、オートリツ」ニ州博覽會事務掛ノ職務ヲ兼任スベシ

規則第一

女學校展覽ノ專

第一各博覽會區毎ニ必ス諸著述書ノ中佳ナル者ヲ擇ヒテ學校ノ成功ヲ表シ左ノ二件ヲ明瞭ナラシムベシ

甲 此學校ニ於テ生徒教授ノ成績

乙 ツノ教授ノ章程

右ノ如キ博覽會ニ於テ尋常學校ハ婦女ノ工事中好巧ナル物ヲ撰出スルノミニテ足レリトス且其物品ハ女工ニ限ルガ故書字地理學等ノ如

少男女一般ノ教育ニ關シ女子ノ本業ニ非ル物ハ之ヲ除ク

格別ニ督導方ノ善長ナル學校及其校ノミニ於テ用ヒテ利アリシ教方ハ之ヲ特別ニ學示スベシ

第二若婦女ノ教育ニ付別段一種ノ方向ヲ立テタル學校アラハ博覽會ニ於テ右等ノ學校ノ現在流行ノ状態ヲ顯スルニ注意スベシ
第三博覽會事務掛及審査掛ハ左ノ諸件ニ善ク心ヲ用ウベシ

甲 善ク前條ノ規則ニ遵ヒ博覽會物品ノ無益ニ反復スルヲ省キ且一様ニ過キタルヲニ注意スベシ

乙 諸學校ノ相異ル事物及人々ノ功勞ハ廢リナク審査鑒定スベキ事

故ニ諸學校ノ有名ナル教師等ヲ會シテ此事務ヲ議セシムベシ

規則第二

婦女ノ家内ニテ製スル物品展覽

第一此展覽會ハ家政ニ關スル女工ヲ出サス且此部ニ出ス物品ハ大製作場ニ於テ作り出スニ非ス又世界萬國ノ貿易ニ用ユルニ非ス只國中ノ婦女家内ニテ製作スル物品ヲ云フ

第二此ノ如キ工作ハ國中一般ニ爲スノ風アリテ多クハ古來相傳リテ一種ノ工業ヲ爲スノ地ニ存スルナリ譬ヘバ

甲 「ビュビンヌ」ノ婦女及「ガリシー」人ノ一部織物等ヲ作ル

乙 エスクラボニー及クロアチーノ舊境ノ
婦女ノ工業

丙 ビラノ及イストリーノ婦女筵席ヲ作ル

右ニ舉ル所ハ僅々數例ヲ示シ以テ博覽會事務
掛ノ此ノ如キ工作ノ存在スル地ヲ探索スルニ
便ス

第三此類ニ於テハ明細全備ノ雛形ヲ示スニ及
ハズ只其全体ヲ顯ハシ技藝ノ種々ノ方法
ヲ示スベシ

規則第三

女子ノ營ム工業ヨリ生スル物品展覽

第一此部ニ出スベキ女工ノ物品ハ二類ニ分ル

甲 女工人ノ製品即近世婦女ノ工人トシテ
作ル物品

乙 婦女ノ自己好尚ニヨリテ作りシ物

甲條中ニハ都テ女工ヲ用イテ作レル物品即
繅花ノ製造白地及彩色ノ縫箔編物紙ノ製造
及織物等

乙條中好尚ニヨリテ作レル物品ノ部ヘハ實

賤別ナク都テ利ヲ得ルノ目的ニ非ス自己ノ
 好尚ニヨリテ作りレ物品ヲ出ス
 第二此部ハ後來婦女ノ工業ヲ區處スルノ基本
 トナルベキモノト爲スヲ得ベキガ故極メテ肝
 要ナルモノト爲スベシ
 第三故ニ婦女ヲ用ウル工業ニ長スル輩ヲ速ニ
 召會レテ諸事ヲ調査シ以テ婦女ノ工作ニ干係
 アルヲ明瞭タラシムベシ
 第四此博覽會ノ趣意ハ固ヨリ百工ヲ舉示スル
 ニ非ス只婦女ノ之ニ關係アルヲ示ス爲メナ

レバ工業ノ各種ニ付キ或有名ノ製作場ニ於テ
 婦女ノ作ルヲ得ベキ物品ノ見本ヲ出スヲ以テ
 足レリトス
 第五故ニ之カ爲メ工人ノ員數ソノ工業ノ形狀
 及ソノ工錢ノ明細表ヲ作ラサルヲ得ス
 第六審査掛ノ規則ハ此表ニヨリテ設クベシ

規則第四

藝術ニ關スル物品ノ展覽

第一此博覽會ヘハ廣ク畫圖彫鏤ノ物品ヲ出シ

營生ノ爲メ作りシ物ト又好尚ニヨル物トヲ論
スルヲナシ

第二畫圖ノ部ハ分ツテ三種トスルヲ左ノ如シ

甲 油畫彩色石筆畫水色畫細密畫陶畫

乙 諸類ノ石筆畫

丙 凡テ寫刻術ノ事即木刻石刻寫真

第三塑藝ノ部ハ凡テ此藝ニ關スル諸物ヲ惣包

ス

第四此部ノ爲メニハ別段審査掛ヲ設ケテ博覽
會ヘ差出スニ足ラザル物品ヲ見別セザルヲ得

ズ

右ノ諸物ノ中多クハ本博覽會ノ藝術ノ部ト混
亂チ生スルヲアルヲ恐ルヘキモノナシ若一人
ニシテ兼テ二類ヘ出品スル者アル其大博覽會
ノ目的ニ妨ケナシ

規則第五

文學ニ關スル物品ノ展覽

第一此部ヘハ婦女ノ文章著述ノ上梓セシモノ
ヲ出ス

第二此部へハ他類全様千八百六十七年大博覽會後ノ物ノミヲ出スベキハ言ヲ俟タス
第三此博覽會ヲシテ前條ニ記スル年代間婦女ノ著述セル文章書籍ヲ蒐集シタル文庫ヲ有セシムルハ此部アルヲ以テナリ
第四此ノ文章著述ノ展覽物ハ尋常文庫ノ如クソノ作者ノ新古ニ順ツテ列スヘシ
第五審査掛ハソノ物品ノ善惡巧拙ヲ評論スルヲナシ只其中文章ニ關セサル書ナルヲ確著セル時ハ之ヲ除ク

六拾二号

萬國ノ亞麻ヲ作ル者麻ニテ物ヲ製スル者及之ヲ賣ル者ノ會議ノ事

規條

亞麻ハ農耕上及工作上ニ於テ極メテ緊要ナル者ナレハ千八百七十三年ノ大博覽會ニハ必ズ麻及ソノ製品ノミナラズ之ヲ製シテ糸トナスノ方法機關器具等ヲ悉ク出スベシ
唯之ヲ目撃セシムルノミナラス又ソノ製法實

理ヲ知ラシメンガ爲メ都テ裁養工作商法ニ關
 係スル輩ヲシテ一大會議ヲ爲サシメントスソ
 ノ會議ノ職務ハ此布告書ニ載スル所ノ間目ニ
 答ヘ且麻ノ裁養ヲシテ益々農耕者ニ益アラシ
 メ工作者モ亦精好ノ麻ヲ廉直ニ買フヲ得ルニ
 至ルノ方法ヲ討論協議スルコト也
 此會議ハ千八百七十三年八月十八日十九日二
 十日ニ之ヲ爲スベシ
 麻ヲ作り之ヲ絲トシ或之ヲ賣ル農夫工作者商
 賈及此ノ事ニ關スル學術ニ長スル者等ハソノ

會議ノ議論ニ參與シ決議ニ出席スルヲ得ベシ
 但豫メソノ出席ノ願書ヲ差出スベシ
 此會議ニ出ルヲ請フノ願書ハ澳國及諸外國ニ
 皆各ソノ國ノ博覽會事務局ニ之ヲ差出スベシ
 乃テ事務局之ヲ晚クモ千八百七十三年五月一
 日前ニ惣理官ニ傳達セル後本人ノ姓名ヲ記シ
 タル出席免狀ヲソノ國ノ事務局リニ送附ス事
 務掛之ヲ本人ニ與フベシ
 右ノ事ニ關係スル人々ヲ以テ惣代ニ惣代ハ一人
 ナ編制シ以テ會議ノ用意ヲ爲サシメ且會議ニ

差出スベキ見込書等ヲ書記セシム
 惣代ハ此布告文ニ記スル諸事ヲ處セシムル爲
 メ幹事トナルベキ者ヲ惣理官ニ申シ惣理官之
 ナ命任スベシ
 會議ニ參スベキ諸人ノ惣會議ノ發會ハ惣代ノ
 長之ヲ爲スヘシ議長ヲ撰シ且日々ノ議事ノ順
 序ヲ定ムルハ悉ク會議ニ在リ
 會議ノ節議論ハ獨語英語佛語以語ノ中ヲ以テ
 スベシ
 此布告文ニ關スル書簡著書見込等ハ晚クモ千

八百七十三年五月下旬迄ニ維也納府博覽會事
 務惣理官ニ差出スベシソノ表書ハ左ノ如シ
 「麻ノ裁養工作商法ヲ爲ス者ノ大會議ノ爲メ
 會議ノ議論及決議ハ後ニ之ヲ刊シ以テソノ會
 議ニ與カル者ニ送ルベシ

問目

第一 麻ノ種ヲ擇ブテ及ソノ生産ニ付如何ナ
 ル經驗ヲ爲セシヤ又此ノ種ヲ善クスルニハ如
 何ナル方ヲ用ウルヤ
 第二 方今用タル麻ノ作養方ハ如何シ又ソノ

方ヲ弘ルニハ如何スベキヤ
 第三 麻ヲ製スルニ如何ナル方法ヲ用ウレバ
 最利アルヤ
 第四 方今麻ノ商法ニ付不便ナルコトハ何ソ又
 之ヲ正スノ方ハ如何ン
 第五 凡ソ麻ノ生産ヲ多クスルニハ如何ナル
 方ヲ用ウヘキヤ又麻ヲ成レベキタケ有用ニス
 ルノ道ハ如何ン

六十三号

諸國ヨリ威府博覽會場へ物品ヲ輸送スル

規則

第一條

一 國境ノ稅局ニ於テ各國博覽會公使ヨリ證書
 ナ添ヘテ輸送セル物品ノ荷箱ヲ收受シヨレ
 テ開封セシテ直ニ博覽會場ノ稅局長ニ送
 與スベシ故ニ荷箱ノ上ニ物品目錄ヲ詳記シ
 置クベキ事

第二條

一 博覽會場稅局長丁寧ニ荷物箱ノ封緘ヲ檢査

シ之ヲ開封シテ其記号ヲ筆記シ然ル後各國博覽會公使中荷物掛リ全權ノ者ニ其物品ヲ付度シ置クヘキコ

第三條

一各國ヨリ物品ヲ博覽會場へ輸送スル荷箱ノ上ニ納稅ノ事ハ記スルニ及ハス只商賣荷物ノ如ク物品ノ種類及ヒ其數員ノミ記シ置クヘシ稅局長ハ其荷物ノ稅額ヲ能ク調査スルヲ以テ主要トスル事

第四條

一各國ヨリ物品ヲ博覽會場へ輸送スルニ荷印ナキモノヲ送ルヘカラズ必ス國々色分ケノ荷印ヲ置クヘキコ

第五條

一各國ヨリ博覽會場ニ出展セル物品中若シ自國へ送り戻サントスルモノアラハ博覽會場稅局長ヨリ國境ノ稅局へ其由ヲ告知シ置クヘキ事

第六條

一博覽會卒業ノ後政府ノ所領地内へ留メ置ク

ベキ物品ハ更ニ其輸入税ヲ納ルベキ事

第七條

一若シ博覽會場へ差出シタル物品税ヲ納メサル者アラハ其物品或ハソノ持主ヲ抑留スベシ否ラザレハ博覽會公使附屬ノ者ヲ留メ置クベキ事

第八條

一博覽會へ差出シタル物品荷箱ノ上書ト品數ト相違ヒ或ハ物品ヲ報知ナクシテ他所へ運送シ又ハ告ゲスシテ賣却スル者アルハ相

當ノ罪科ニ處スベキ事

第九條

一威府博覽會場ニ於テ各國ノ者烟草ヲ賣ルヲ禁スル事

第十條

一博覽會卒業ノ後三ヶ月ヲ經ルモ税局長ニ物品ノ輸出ヲ報知セサルハ更ニ輸入ノ税ヲ收ムベキ事

第七十一号及七十二号

外國出品受納之事

總裁左之ケ條ヲ報知シ以テ總規則ノ第三篇中
 博覽會出品ノ發送及受納ニ關係スル二十七套
 ニ公布セシケ條ヲ補ハント欲ス即第一運送場
 ト博覽會事務局トノ算計ノ混亂ヲ省ンガ爲メ
 出品差出ノ時直ニ其費用ヲ拂フベシ
 第二凡ソ博覽會ヘ運送スベキ物並惣規則ノ第
 三篇中二十七套ニ示シタル上ハ書ヲ貼付スル
 ヲ要ス
 其他右上ハ書ノ左方上角ニ國旗並國名ヲ記載

スルヲ乞フ且惣裁ノ名宛列品所へ出品ノ人名
 國名住所區分出品願ノ番号及ヒ送數ノ番号ヲ
 モ上ハ書ニ記スベシ
 又物品ヲ各其列品所へ迅速ニ達センガ爲メ左
 ノ種々ノ色紙ヲ用ヒテ以テ此上ハ書ヲ黒記ス
 ヘシ即

- イ ロトンド(國家)ニ列品スベキ物品ニ
 ハ白紙
- 但ロトンドノ云語ヲ記スベシ
- ロ ガレリー(處)ニ陳列スベキ物品ニモ

白紙

但其國ニ属シタルガレリーヲ配示スベシ

ハ 「ハール、ナウ、マシーヌ」(器機所)ニ列ス

ベキ物品ニハ鼠色紙

ニ 美術ノ展觀物ニハ黄色紙

ホ 農業ニ關スル物品ノ陳列所ニ列ス

ベキ物品ニハ青色紙

ヘ 好事家及博物館ノ展觀物ニハ橙色

紙

ト バルク(庭)ニ羅列スベキ物品ニハ綠色紙

色紙

第三惣規則ニモ掲載セシ如ク右上ハ書ヲ箱ノ

蓋側面及内部ニ善ク貼付スベシ

第四藝術ニ属スル物品ヲ含メル箱等密ニ其縫

隙ヲ糊付スベシ

第五全一ノ列品所ニ陳列スベキ物品ハ務テ全

一ノ列車ニ裝載スヘシ

但外面各箇ニ上ハ書ヲ貼付スベシ

第六博覽會行物品ハ其該司事務官ノ調印セル

出品證書ヲ添テ之ヲ發送スベシ
第七博覽會場へ達セル鐵道二條アリ即北ノ鐵
道及政府ノ鐵道ト稱スルモノニシテ總テ物品
ヲ運送スヘシ又總裁ノ建設セル物品受納局ニ
於テ右物品ヲ下卸シ且博覽會場ノ諸部へ之ヲ
配達スルヲ司ル
第八務メテ物品ノ受納ニ便スル爲メ事務官タ
ル者是ノ受納局ト共議アラシムテ乞フ
第九凡物品到着セバ是ハ受納局ニ於テ之ニ番号
ヲ記シ且ツ之ヲ簿記ス又事務官タル者モ物品

ノ精細表及ヒ出品人ノ姓名ヲアベセノ順序ヲ
以テ記セル簿冊ヲ所持スルヲ乞フ

但此受納局ニ於テ記セシ番号ハ稅局ニテ
之ヲ檢査スルヲ以テ緊要ナル者トス故ニ
粗畧ナキヤウ取扱フヲ乞フ

第十物品返送ノ時有用ノ空箱等ハ其寄托料ヲ
附シ以テ總裁ノ建設セル倉庫掛リニ之ヲ付度
スベシ又閉場ノ時ハ物品受納局ニ於テ其箱等
ヲ務テ速ニ返却スヘシ

第十一總規則中此布告文ヲ以テ改革セザル欵

條ハ舊貫ニ仍ルヲ論ヲ待ズ

證書案文

番号

千八百七十三年維納博覽會

國名

出品證書

左ニ記セルモノハ博覽會物品ナルカ故ニ其總裁ニ之ヲ送致スベキノ許可アリ因テ事務官タルモノ調印シ以テ之ヲ證ス

物品ノ印及番号

種類

中荷

重

出品ノ人名

住所

出品願ノ番号

月日

地名

事務官判

七拾六号

審査掛リノ編成

第一博覽會出品審査ノ事

第一區ヨリ第二十六區マデノ物品ハ萬國審査掛之ヲ審査スベシ第二十四區好事家ハ此例ニ非ズ

第二 増加及暫時博覽會ノ事

増加博覽會即諸發明ノ來歴工作ノ沿革諸物價ノ變遷屑餘ヲ有用ニスル事全地球ノ貿易ノ形勢ヲ顯ス事童子ノ居所及女工等ハ審査掛ノ中別ニ分課ヲ設ケテソノ事ヲ審査セシムベシ此分課ノ官員ハ萬國審査掛ノ中ヨリ撰擇スベシ右増加博覽會中最後ノ二課ヘハ鑒定人トシテ

婦人ヲモ出席セシムベシ

「クレモーン」名地ノ器物ハ審査セズ

一々布告書ニ隨ヒ禽獸牛乳類園庭ニ關スル類葡萄及菓樹ノ植養等ノ暫時博覽會ノタメニモ別段ノ審査掛リヲ命ズベシ

第三 澳地利洪葛利國ノ審査掛召集ノ方法

民選議院ヘ代議士ヲ送ル諸王國及其他ノ國々ノ審査掛ハ各區ノ出品人ソノ半ヲ撰舉シ政府ソノ半ヲ命ズベシ若一區ノ審査掛ノ官員ノ數

奇ナル時ハ惣數半分ノ中一人少ク撰舉スヘシ
撰舉ノ入札ハ緘封シテ之ヲ惣理官ニ送り全官
之ヲ博覽會事務掛リノ第十六課ノ「ユミター」エ
キユゼキユナフ_{事務}施ヘ差出スヘシ此第十六
課ハ撰舉ノ諸事ヲ司ル
右撰舉セシ所ノ者ヲ承可スルハ博覽會事務大
惣督殿下ニ在リ
洪葛利王國ノ審査掛ヲ召集スルハ洪葛利政府
及ソノ任セル事務掛ノ任タルヘシ右撰ニ當リ
レ官員ノ名簿ハ千八百七十三年四月十五日前

ニ惣理官ヘ報知スヘシ

第四 外國審査掛召集ノ方法

外國博覽會事務掛ハソノ國ヨリ差出スヘキ審
査官ヲ召集スル最便宜ノ方法ヲ以テシソノ姓
名ヲ千八百七十三年四月十五日前ニ惣理官ヘ
報知セシメテ請フ

第五 審査官員數ノ事

澳地利洪葛利國及各外國ノ審査官ノ數ハ左ノ
表ノ如ク各區出品人數ノ多寡ニ應スヘシ
各區ニ付左ノ如ク審査官ヲ置クヘシ

出品人十人ヨリ百人マデ	審査官一人
全百一人ヨリ二百人マデ	全 二人
全二百一人ヨリ三百人迄	全 三人
全三百一人ヨリ四百人迄	全 四人

餘ハ此例ニ准ス

各外國ハソノ國ノ審査官差支アル時ハ必ス其代人ヲ命スヘシ若本官代人ニ差支アル時ハ博覽會事務大總督殿下ソノ代人ヲ命ス諸審査官ノ名簿ハ千八百七十三年四月下旬ニ之ヲ公布スヘシ

第六 鑒定者ノ事

各類ノ審査掛ハ區ノ他類ノ審査官或ハ他ノ鑒定者ト共ニ事ヲ處スルヲ得ベシ
 鑒定者ヲ撰ムニハ各類ノ會議ノ席ニテ審査官一人或惣理官ノ代人之ヲ申薦シ其發言ノ過半ヲ以テ之ヲ命ズベシ
 撰舉ニ當リシ鑒定者ノ名簿ハ惣理官之ヲ公布スヘシ

第七 審査官會議ノ席ニ於テ惣理官ノ

代人ノ事

惣理官ハ己ノ名代人ヲ命ジ此代人ハ審査官ノ
會議ニ出席シ發言スルノ權アリ且其他物品ヲ
查考鑒定スルニ有用ナル諸事ヲ調査スルノ任
アリ

第八 全會議ノ時外國博覽會事務掛代
人ノ事

外國博覽會事務長官ハ自身或代人ヲ以テ審査
掛ノ會議ニ參與シ且其議ヲ決定スルヲ得ルノ
權アリ

第九 類ノ審査掛ノ事

審査掛ノ事ヲ處スルハ千八百七十二年九月十
六日布告シタル物品陳列法ニ基クベシ
博覽物ヲ審査スルニ便センカ爲メ區ノ審査掛
ヲ分ツテ類ノ審査掛リトスルヲ後表ノ如ク附
表第一号ヲ見ルベシ
工作ノ器械 第十三區及製作場ノ繪圖雛形其他都
テ數様ノ目的ヲ以テ審査スヘキ物品ヲ鑒定ス
ルニハ此器械及製作場等ノ產物ヲ審考スヘキ
審査掛ノ鑒定者ヲシテ會議ニ參與セシムベシ
然レテ此鑒定者ハ發言ノ權ヲ有ス

第十類ノ審査掛ノ編製及事務

各類ノ審査掛ハ一分課ヲ爲シ以テソノ官員中ヨリ統領一人副統領一人幹事一人或數人ヲ撰舉スベシ

類ノ審査掛ハ官員五人以上アルニ非レバ一課ヲ爲ス能ハス若此數ニ及ハサル時ハ區ノ審査掛ハソノ類ノ事務ヲ他類ノ審査掛ニ委任スベシ

各類ノ審査掛ハ其類中ノ列品ヲ審査セシ上其中褒賞スルニ至ル者ヲ申立ツベシ

右ノ申立ハ區ノ審査掛ニ報告シソノ承可ヲ受クベシ

第十一區ノ審査掛ノ編制及事務

各區ノ審査掛ハソノ區中ノ諸類ノ審査掛ヲ以テ編成ス

各區審査掛ノ統領一人及副統領二人ハ博覽會事務大惣督殿下之ヲ命スベシ

幹事ハ區ノ審査掛ノ中ヨリ之ヲ撰ヒ且審査掛自ヲ撰フベシ

區ノ審査掛ハ一課ヲ成スニ足ラサル類ノ審査

掛ノ事務ヲ配賦シ且名譽ノ賞書ヲ受クヘキ者ヲ指定ス

第十二 統領會議

區ノ審査掛ノ統領副統領及幹事相集リ以テ統領議會ヲ成ス

博覽會事務大總督殿下ハ此議會ノ統領一人副統領二人ヲ命任スベシ統領議會ノ職ハ區ノ審査官ヨリ差出シタル大綱ノ事件ヲ裁決シ名譽賞書ヲ頒與スルコトニ關スル稟告ヲ區處シ且區ノ審査掛ノ稟告ヲ受ケテ之ヲ博覽會事務大總

督殿下ニ傳啓ス

第十三 審査掛議事ノ方法

統領或ソノ不在ノ時ハ副統領タル者審査官ヲ會議ニ召集シ議事ヲ指示シ又善ク心ヲ用ヒテ幹事ヲシテ夫々ノ建言決議及ソノ原由等ヲ其日ノ議事書ヘ記載セシム然シテ此議事書ハ細ニ點檢セシ上之ヲ惣理官ヘ差出スヘシ

第十四 審査官決議ノ事

各類或區ノ審査掛及統領議會ハ惣官員ノ中少ナクモ半分出席セサル時ハ決議ヲ爲ス能ハス但

統領ハ其數ニ非ス
審査掛ノ決議ハ必ス發言ノ過半ヲ以テ之ヲ爲
スベシ發言ノ數相半スル時ハ統領ノ發言ヲ以
テ議ヲ決ス

第十五 審査掛及鑒定者ハ褒賞ヲ受ルヲ
得サル事

審査掛ノ職ニ在ル出品者ハ全ク褒賞ヲ受クル
ノ意ヲ絶ツベシ尤鑒定者ハ只己ノ關スル類ノ
ミノ賞ヲ受クルヲ得ス右ノ原由ヲ本人ノ出品
上ニ附記スベシ

出品者ニ縁故アル者及ソノ家ノ支配人モ亦前
條ノ所定ニ遵フ

第十六 出品者自己ノ意ヲ以テ褒賞ヲ受
クルヲ辭スル事

各出品者ハ己ノ物品ヲ審査セシムルモ否ルモ
適意タルベシ若之ヲ欲セザル時ハ質問書ニ「ホ
ールコンクール」ノ字ヲ記シ以テ其意ヲ表スベ
シ若審査ヲ受クルヲ欲スルヤ否ヲ稟告セザル
者ハ之ヲ欲ル者ト看做ス又數區或數類へ物ヲ
差出ス者ハソノ區及類ヲ質問書ニ記スベシ

第十七 エキスポジションコレクション
物体ノ審査

エキスポジションコレクションハ合シタル一
箇ノモノト看做シ前ノ諸條ニ記セル諸規則ヲ
遵用スベシ然レ此博覽會ノ出品者ノ中別々ニ
審査ヲ受ケントスル者ハ審査掛ヘ報告スベキ
諸件ヲ一々別ニ差出スベシ

第十八 審査掛ノ豫メ處スヘキ事務

各出品者ハ其國ノ事務掛リヨリ質問書一枚ヲ
附表
第二号 收取シ己ノ出品ニ付報告スベキ諸件ヲ

記シテ審査掛ニ差出スベシ務テ精細ニ報告
認メ遅延ナク差出スハ自己ノ益タルベシ然
サル時ハ調査ノ不足ヨリテ其物品相當ノ審
査ヲ受ケザルノ危キニ違フベシ各國博覽會事
務掛リハ右質問書ヲ殘リナク記シメ上五
月一日前ニ總理官ヘ差出スベシ

第十九 審査掛ノ事務ノ期限

萬國審査掛リハ千八百七十三年六月十五日
會集レ七月ノ下旬ニソノ事務ヲ了スベシ

第二十 褒賞ノ公事

出品者ニ與フル褒賞ハ千八百七十三年八月十八日ニ大集會ノ席ニ於テ之ヲ公布スベシ然レテ後ソノ物品ノ上ニ記シテ以テ之ヲ世ニ公ニス

第二十一 褒賞ノ諸類

博覽會ニ付審査掛ヨリ與フヘキ褒賞ハ左ノ如シ

第一 維也納府千八百七十三年大博覽會名譽ノ賞牌

第二 進步ノ賞牌

第三 有功ノ賞牌

第四 妙技ノ賞牌

第五 雅致ノ賞牌

第六 協贊ノ賞牌

第七 表狀

都テ出品者ハ全種ノ工作ニ属スル物品ニ付テ數賞ヲ併セ受クルヲ得ズ

第二十二 褒賞頒與ノ規則

褒賞頒與ノ爲メ左ノ規則ヲ定立セリ

第一 「維也納千八百七十三年大博覽會名譽

ノ賞書ハ

諸學術人民ノ教化人ノ心術身體ノ安
 全幸福ヲ盛大ニセシニヨリ卓逸ノ功
 勞アリシ者ノミニ與フル賞ト看做ス
 ベシ此賞書ハ統領議會ノミ區ノ審考
 掛ノ申立ニヨリ之ヲ與フルヲ得ベシ
 第二「進歩ノ賞牌」ハ第一區ヨリ第二十三區
 マテ及第二十六區ノ出品者ノ中前ノ
 大博覽會後新工夫ヲ發明シ或新品新
 方等ヲ用ヒテ製作ノ進歩ヲ爲セシ者

ニ與フル者ナリ

- 第三 有功ノ賞牌ハ製工ノ精妙物品ノ高上
 ナルニヨリ貿易ノ道ヲ開キシニヨリ
 益精好ノ器械ヲ用ヒシニヨリ及物品
 ノ廉直ニヨリテ衆ニ秀テシ者ニ與フ
- 第四 妙技ノ賞牌ハ第二十五區中卓越ノ物
 品ニ與フ
- 第五 雅致ノ賞牌ハ模様及色彩ノ衆ニ秀テ
 シ工物ヲ出セシ者ニ與フ
- 第六 協贊ノ賞牌ハ製作場ノ支配人工長草

圖ヲ爲セシ者塑像ノ雕形ヲ作ル者其
他總テ物品ノ品價或ソノ賣價ニ於テ
カフル者等ニ與フ但出品ノ本人自カ
ラソノ者ヲ申出ベシ

第七 表狀ハ出品精好ナレ共進歩或有功ノ
賞牌ヲ受クルニ足ラザル者ニ與フ

第二十二 審査掛ノ局

惣理官ノ名代人ハ別ニ一局ヲ建テ都テ審査掛
ノ議事職務ニ關スル事件ヲ處分スベシ此局ハ
審査官ニ差出スヘキ書面類ヲ受取り之ヲ全官

ニ傳達シ又審査掛ヲ會議ニ召集シ物品審査ノ
時ハ之ヲ外國博覽會事務掛及出品人ニ報告シ
審査掛ノ議事書類ヲ集メ總テ問糺サントスル
事ハ之ヲ調査シ且入用ノ細小品ハ之ヲ給與ス
ベシ

千八百七十三年二月十五日

博覽會事務大總督

アルシヌツクレキエー

博覽會事務總理官

パロンシユワルツセンボルシ

第一號附表

審査掛ノ區及類

第一區 鑛山ノ開鑿及金屬製治ノ專

第一類 鑛山ヲ開ク

第二類 鑛鑛ヲ開ク

第三類 其他ノ鑛ヲ開ク

第二區 農耕及材木ヲ養治スル術

第一類 田舎ノ經濟

第二類 獸類牧養

第三類 林木植養ノ

第四類 葡萄及其他ノ菓樹植養ノ及作

園術

第五類 農具

第三區 化學ニ基ク諸工術ノ

第一類 工作ニ用ウル化學上ノ物品

第二類 藥種ノ製作香油香物類都テ藥ニ

用ル化學上ノ物品化學ニ基ク工

藝

第三 脂膏物

第四 「ヂスナラシヨンセーシユ」ノ物 氣湯

フニテヌメ

第五 發火鐵染料ニ用ル物品及其他化

學ニ基ク工作ノ物品

第四區食料ニ用ウル工作品

第一 麥粉及其他粉物

第二 砂糖、砂糖漬及シヨコラト

第三 葡萄酒燒キタル麥、麥酒其他沸騰

スル飲料及酢

第四 永存ノ食物凝固シタル肉汁及肉

第五 煙草其他全類ノ物品

第五區織物及衣服ニ属スル製造品

第一 手織物

第二 木綿

第三 麻布

第四 絹

第五 金絲類金銀織物編物縫箔物鳥羽

織物革及紙ノ綵花

- 第六 男女ノ衣服毛革ノ衣類冠帽手袋
- 第七 沓ノ類
- 第八 經師職モ属スル物品
- 第六區 諸皮革及カウチユノ物品
 - 第一 毛革ノ衣類
 - 第二 革ノ物品
 - 第三 「カウチユ」
- 第七區 金屬物品
 - 第一 金銀物玉石金銀箔
 - 第二 鐵及網ノ物品

- 第三 戰具ノ外諸兵器
- 第四 其他ノ金屬物
- 第八區 木製物品
 - 第一 匠工指物師ノ製品寄木細工馬車荷車轆轤細工木刻物
 - 第二 割木細工發火鑊ニ用ウル木キルクニ用ル木ニテ作りシ物籠細工
 - 第三 漆器、塗りタル木及金飾ノ木ニテ作りシ物
- 第九區 石物硝子物壺瓶類

- 第一 石物及聖土ノ物品
 - 第二 陶器其他土ヲ燒キテ作りシ物
 - 第三 水晶類及華美ノ硝子物硝子板
- 第十區臺卓類羊皮物及玩物

- 第一 エキユムドソールノ白土ニテ作りシ物
骨等
- 第二 骨等

- 第三 手套及羊皮革唐銅塗物ノ游戲物
- 第四 箒杖鞭傘笠

第十一區紙ノ製品

- 第一 パート糊ノ類 厚紙紙
- 第二 遊戲ニ用ウル紙色紙骨牌表紙
- 第三 文房具符号學ノ用具畫家ノ用具
- 第四 書ヲ綴ル者ノ製品紙厚紙等ニテ作りシ物品

第十二區符號學及工作ニ用ウル畫圖

- 第一 圖學銅鋼板石印術彩色石印術
- 第二 彫刻者ノ製品木刻
- 第三 寫真圖

第四 工作ニ關スル畫圖粧飾ニ用ウル
圖畫

第十三區運輸ノ器具

第一 動機傳機機關ノ中ヨリ離シタル
分

第二 器具ニ用ウル機關

但第十一區ニ出シテ審査アリ
受クヘキ器具モ此中ニアリ

第三 鐵道ニテ用ウル運輸及其他ノ器
具

第四 馬車及荷車其他運送ノ方法

第十四區測量及醫學器具

第一 測量學星學究理學及化學ノ器具

第二 時計

第三 外科プロターズ人體ノ作物ヲ以テ
術ノ器具

第十五區樂器

第一 絲ナキ樂器風琴ノ類

第二 絲アル樂器三線ノ類

第三 其他ノ樂器

第十六區軍學

- 第一 軍服類
 - 第二 武器惣類大砲土工兵
 - 第三 海陸軍傷者ノ救助
 - 第四 軍士教育練練ノ下地圖史學
- 第十七區海軍
- 第一 造船及軍備
 - 第二 都ヲ航海ニ關スル造建測量學
- 第十八區土工建築造家ノ器具及方法
- 第一 公用ノ厦屋ノ繪圖雛形及草圖
 - 第二 水利ニ關スル工業

- 第三 道路及鐵道建築ノ器具及方法
- 第十九區商家ノ建方ソノ内部ノ模様ソノ飾裝及家具
- 第二十區田家ノ建方ソノ内部ノ模様ソノ廚具及家具
- 第二十一區各國人家内部ノ工作物
- 第二十二區工作ニ適用スル美術博覽場ノ益ヲルヲ顯ハス
- 第二十三區教法ニ關スル物品
- 第十四區ヨリ第二十三區マデノ展覽物

ハソノ入屬スル區ノ審査掛製作上ノミニ
付キ或惣体ニ付テ之ヲ鑒定スベシ

第二十四區好事家ノ出品 審査ナシ

第二十五區美術ニ關スル製品 但千八百六十
年

會後製
物

第一 建築學

第二 彫刻學

第三 畫學

第四 符號學

第二十六區教育學問ノ事

- 第一 小學校ノ繪圖模樣教授及修學ノ方法
- 第二 中學校同
- 第三 專門學校及大學校同
- 第四 壯年者學校ノ方法

附表第二号

國何 維府千八百七十三年大博覽會

區何

物品録ノ番号
細目録ノ番号

萬國審査掛

布告文

澳國博覽會事務局

一	病氣其外都テ救助ノ方法及用意
二	毎年産物ノ平均價直
三	賣出ノ高及ソノ場所道筋
四	其他本人工作上ニ付テノ目的
五	前ノ博覽會ニ褒賞ヲ受ケシ事
六	其他本人ヨリ報スベキ事
七	本人ソノ品ヲ列セシメントスル類
八	本人ハ品物ノ審査ヲ受ケルヲ欲スルヤ否
九	都テ本人ヨリ別段審査掛リヘ報知セントスル事件
	姓名印

追加

第一 此ノ質問書ハ博覽會事務掛ヲ五月一之日マデニ
 官差出サザルヲ出品人ハ審査官ヨリ相當ノ
 審査ヲ受ケルハ必ス己ノ物品ニ自査過タルハ
 出品スルハ必ス己ノ物品ニ自査過タルハ
 第二 欲品スルハ必ス己ノ物品ニ自査過タルハ

第三
第四

コソルヲ欲セザル時ハ質問書中ヘ「ホーレ
 敷區或類ヲ記スベシ出ス者ハ質問書中
 若本番能答ハ部狭シハ別紙ニ書シ之ニ
 一若本番能答ハ部狭シハ別紙ニ書シ之ニ
 一若本番能答ハ部狭シハ別紙ニ書シ之ニ
 一若本番能答ハ部狭シハ別紙ニ書シ之ニ

八十三號

帝國ノ皇族ライチル氏ノ管轄第三号醫師
 集會所ノ規則

第一條

一此集會ハ今回ノ萬國博覽會ト共ニ九月一日

布告文

七十五

澳國博覽會事務局

ヨリ同八日迄ノ間開設スル事

第二條

一此集會ニ會合ノ人員左ノ如シ

一豫メ任シ置カレタル議員ノ者

一政府大學校專門學校醫師曹輩及ヒ病院

等ヨリノ代音者

一發會迄ニ會長へ届出デ有之醫師及ヒ第

理者

第三條

一此集會所へ會合ノ人々別ニ税金ヲ納ムルニ

不及事

第四條

一此集會所へハ何人ヲ問ハス入テ見聞スル

ヲ許容ス但シ威府ノ議員及ヒ醫師曹輩中ニ

テ有學ノ人々爲ニ會合スル様專ラ周旋スヘ

キ事

第五條

一此會へ集合ノ人々互ニ論談スルノ權ヲ有ス

但シ其論談ノ順序ヲ定置クベキ事

第六條

一 集會ノ規則ニ甲乙ノ二科アリ

甲ハ議員ノ定メタル規則并ニ集會ノ措置

ヲ設クル事

乙ハ遲クモ八月十五日迄ニハ疑問ノ條件

ヲ會長ヘ届出テ會長ヨリ問題ノ日課

ヲ定メラル、事

第七條

一 議員ヨリ定メラレタル論談ノ規則左ノ如シ

一 種痘ノ問題

一 賣女黴毒ノ問題

一 暴瀉病ノ流行ヲ避クルノ問題

一 市中ノ人民ニ健康ヲ保タシムルノ問題

一 製藥譜ヲ全一ニスル説

一 諸國ノ醫學ヲ務テ全一ニシ其業術ヲ正

フシ議員ヲシテ自由ニ旅行シ以テ其業

ヲ行フヲ得セシムルノ説

第八條

一 議員ヨリ問題ノ返答書ヲ開場迄ニ印刷シテ

渡サルベシ此返答書ヲ以テ集會ノ席論議ノ

根據トナスベキ事

第九條

一 開場及ヒ閉場ノ日ニ於テ上席タル者ヲ以テ
議員ノ長官ヨリ會長ト定メラルベシ又其他
ノ集會日ニ於テ上席スベキ者ヲ開場ノ初日
ニ於テ撰擧スベシ但シ閉場ニ至ル迄集會局
ヲ議員ヨリ設置カルヘキ事

第十條

一 此學問上ノ問題ニハ紙上ノ辨論ヲ置キ實地
上ノ目的ヲ以テ返答アルヘキ事

第十一條

一 上席人ノ撰擧及ヒ自己ノ建議ハ投票ヲ以テ
申陳スヘキ事

第十二條

一 第三号醫員集會ノ席ニ於テハ獨逸語ヲ用ウ
ヘシ然レモ 談論ニ當テハ他ノ語ヲ用ウルコ
ト宥恕ス會長ヨリノ報知書集會ノ記事等ハ
獨逸語ヲ用ヒ佛語英語及伊太利語ヲ以テ之
ニ譯解ヲ附スヘキ事

第十三條

一 閉場ノ前日ニ於テ他日第四号ノ醫員集會ヲ

設クル場所及ヒ其時月ヲ定メ且ツ其議員ヲ
撰定スベキ事

第十四條

一 集會ノ記事ヲ印刷シ會台ノ人々ニ頒與スベ
キ事

八十五號

威府萬國博覽會場出入ノ規則

第一條

一 此博覽會ハ千八百七十三年五月一日ヨリ全

年十月三十一日迄開場ノ事

第二條

一 博覽會場日々開閉ノ時間ハ毎月一日ヲ以テ
更ニ布告スベキ事

第三條

一 博覽會場通行門左ノ如シ

一 「ウルスタルプラータル」ニ於ル展覽館ノ

西門

一 「アウスタルルンクス」街ノ窮途ニ於ル

器械陳列所ノ西門

一「ブライタルハウプトアル」ニ於テノ南門

一「ロンデアウ」ニ於テノ入口

一博覽會ニ屬スル鏡道會所ノ入口

第四條

一博覽會閉場迄ノ門鑑及ヒ一週間ノ門鑑ヲ有スル者ハ西門及ヒ南門ヲ通行シ得ヘキ事

第五條

一博覽會場通行門ニ於テ人々門鑑ヲ買フニ金ヲ兌フルヲ許サス故ニ各預メ之カ備ヘテ

ナスベシ然レモ便利ノ爲各門ニ於テ更ニ兌銀所ヲ設置セル事

第六條

一閉場迄ノ門鑑ヲ有スル者ノ外ハ出入ヲ許サズ但其持主ハ各所有ノ門鑑並ニ検査官ノ帳簿ニ己ノ姓名ヲ記載シ置クベキ事

但シ此門鑑若シ紛失セバ再ヒ其代鑑ヲ付與セサル事

第七條

一閉場迄ノ門鑑ヲ有スル者ハ各之ニ其姓名ヲ

手記シ且ツ其規則ニ違背スベカラサル由チ保証スベキ事

第八條

一 四月廿一日ヨリ「ア」テ「ル」街二十四号ニ於テ門鑑賣與所ヲ設ケ以テ閉場迄ノ門鑑ヲ發賣スヘキ事

第九條

一通例ノ門鑑ヲ有スル者ハ博覽會場ニ入ラバ直ニソノ門鑑ヲ納ムベシ但シ持主ノ外此ニ入ルヲ許サス若シ持主ニ非スニテ妄ニ入

ルモノ有ラハ即チ法律ヲ以テ之ヲ處置スベキ事

第十條

一 一週間門鑑へ七枚ノ區分小札ヲ附シ置キ檢鑑ノ者其小札ヲ壹人毎ニ斷却スベシ但シ此門鑑ヲ以テ七日ノ間毎日一人ヅ、入場スルニ又ハ七人齊シク一度ニ入場スルニ隨意タルベシ假令檢鑑ノ者此小札ヲ斷却セザルヲアルニ決テ之ヲ再用スベカラザル事
但シ一週間門鑑ノ價五フロラン也

第十一條

一 一週間門鑑ハ五月二日ヨリ發賣シ全月四日ヨリ用ウヘキ事

第十二條

一 博覽會場ニ入ル者へ出門ノ鑑札ハ相渡サス
一 一度出門シテ再ヒ入ラント欲スル者ハ更ニ門鑑ヲ差出スニ非レバ必ス其價ヲ納ムヘキ事

第十三條

一 門鑑ノ價ハ日曜日其外大祭日ニハ壹枚ニ付

五十カライツ其他ノ日ハ一フロラン也開場ノ初日并ニ褒章頒與ノ日ニハ一枚二十五フロラン五月二日三日ハ五フロラン全月四日ハ二フロラン也

但シ閉場迄ノ門鑑ハ一枚ニ付男子ハ百フロラン女子ハ五十フロラン也然レモ女子ノ門鑑ハ必ス閉場迄ノ門鑑ヲ有スル男子ノ求ニノミ應ニ賣與スヘキ事

第十四條

一千八百七十二年正月二十七日ヲ以テ布告セ

シ如クゲネヲールヂレクトルヘ既ニ届出ア
リシ出品人名代ノ者ハ門鑑相渡スヘキ事

第十五條

一 然レモ其出品人名代ノ姓名ヲハ必ス博覽會
事務官ノ手ヲ經書載ヲ以テ届出ベク然シテ
後右名代人ヘ門鑑ヲ付與スヘシ但シ門鑑紛
失等アル固ヨリ出品人ノ過失タルベキ事

第十六條

一 出品人及出品人名代ノ者モ威府ニ居住セザ
ル者ハ滞留中ノミ門鑑ヲ付與スヘキ事

第十七條

一 組合物品ヲ差出ス者ハ各人ニ門鑑付與ス
ヘシ然レトモ單ニ組合家号ヲ以テ出品セル
者ハ一只一枚ノ門鑑ノミ付與ス可キ事

第十八條

一 博覽會場ヘ工作ノ爲メ雇ヘル者ハ工作中
先ツ一ヶ月限ノ門鑑壹枚ニ付六フロランノ
價ヲ以テ賣與ス可キ事

第十九條

一 博覽會場ヘ暫時間出品セル者ハ其出品時

限中ノ門鑑ヲ付與ス可キ事

第二十條

一物品ノ評人及鑒定者ハ五月一日ヨリ八月迄ノ門鑑ヲ付與ス可キ事

第二十一條

一各國ノ總裁副總裁及ヒ事務官其他新聞紙業名代ノ者ハ更ニ特許通行門鑑ヲ贈ルベキ事

第二十二條

一外國博覽會事務ニ關係ノ者ハ使用ノ門鑑

ヲ其事務官ニ付與ス可シ但シ工作人職工等ノ門鑑規則ハ第十八條ノ例ニ准ス

第二十三條

一澳地利帝國並ニ帝國支配地博覽會事務官ハ閉場迄ノ門鑑ヲ既ニ買取セシ後更ニ特許通行門鑑ヲ贈與スヘキ事

但シ支配地ノ博覽會事務官ハ只威府滯留中ノニ特許通行門鑑ヲ贈ルヘキ事

第二十四條

一週間門鑑ヲ除ク外總テ門鑑ヲ收取セン

トセバ其本人必ズ門鑑賣與局ニ出頭シ調印ノ上之ヲ受クベシ若シ調印ノ證書ヲ以テ閉場迄ノ門鑑ヲ收受セント欲スル者ハ「ブライナル」街二十四号ニ至リテ之ヲ請フヘキ事但シ此方ヨリシテ門鑑ヲ送致セザル事

總裁

シユハルツ、セシボルン

五月一日博覽會開業ノ式

第一條

一 開業ノ當日十二時澳國皇帝及皇后皇族各國高貴ノ人ト、モニ博覽場ニ臨席スル事、

第二條

一 招待ノ賓客及ヒ屆濟ノ出品者ヲ開業式ニ列加スル事

第三條

一 閉場迄ノ門鑑ヲ有スル者ハ開業式ヲ見ルコトヲ許ス 此門鑑ヲ有セスシテ開業式ヲ觀ンコトヲ欲スル者ハ二十五フロンヲ納ムヘシ此門鑑及開業日ノ門鑑ハ今廿三日ヨリ三十

日十二時マテアラテル街二十四番門鑑賣與局ニ於テ買求スヘキ事

第四條

一開業式集會ノ人々當日第九時ヨリ十一時マテニ會場圓堂中ノ定席ニ會スヘキ事
但十一時後ハ會場ニ入ルヲ許サ、ルヲ

第五條

一澳洪兩國ノ皇族夫婦及各國高貴ノ人々當日十一時三十分博覽會場ニ會シ皇帝休息所ニ於テ皇帝ノ臨幸ヲ待ツヘキ事

第六條

一式部長官及次官皇帝ヲ迎ヘ休息所ニ導クヘキ事

第七條

一當日十二時前皇帝及皇后休息所ニ着御ノ事

第八條

一當日ハ大禮服ヲ着用スベシグロックス、クロイツ、^功ノ綬ヲ上衣ニ佩フヘシ若シ大禮服ヲ着用セサル者ハ小禮服ヲ着シ白襟綬ヲ用ツヘキ事
高貴ノ婦女ハ朝裝禮服ヲ着シ頭巾ヲ

用ウヘキ事 當日ハ朝廷ノ忌服ヲ廢スル事

第九條

一 賀易執政國帝休息所ニ候シ皇帝皇后ヲ式場ニ奉迎スヘキ事

第十條

一 皇帝及皇后高貴ノ人々式部長官及賀易執政ノ先導ニテ休息所ヨリ本館ノ南門迄步行セラル、事

第十一條

一 皇帝皇后其休息所ヨリ出門ノキ庭中ニハ列

スル樂隊祝歌ヲ奏シ第一番ノ祝砲ヲ放ツ事

第十二條

一 兩皇族博覽會保護官及大總督博覽會副總督及總裁等ト南門ニ出迎スル事

第十三條

一 皇帝皇后及皇族等直ニ圓堂中ニ設置タル定席ニ就ク事

第十四條

一 皇帝圓堂中へ入御ノキ樂人ヨハンストラウ
ス全所ニ於テ音樂ヲ奏シ並ホーフラベルン

劇場ノ樂師祝歌ヲ唱ヘ全時ニ歌樂社員及學校ノ者ニ至ルマテ一全祝歌ヲ唱フル事

第十五條

一 皇帝皇后及高貴ノ人々各定席ニ就キシ後音樂ヲ停ムル事

第十六條

一 皇族保護官博覽會ノ緣故紀事并一般ノ目錄ヲ皇帝ニ捧ケ祝辭ヲ奏ス皇帝ヨリ當年ノ博覽會ヲ開業スヘキヲ勅答アル事

第十七條

一 此時大鼓ヲ鳴ラシ第二ノ祝砲ヲ發スル事

第十八條

一 國務上將ヨリ皇帝ニ萬國博覽會開業ノ祝賀ヲ奉ル事

維府ノ知事維府ノ人民ニ代テ全ク祝賀ヲ上ル事

第十九條

一 歌樂社中ヨリ「ホーフラーヘルン」ノ樂主「アツトデソッフ」ノ指揮ニテ「ヘンデル」作者ノ祝歌ヲ唱フベシ其時諸國ノ博覽會事務等退テ各

經營ノ列品所ニ會スル事

第二十條

一 祝歌ヲ唱終リシ後皇帝及皇后ハ賀易執政及博覽會總裁ノ先導ニテ兩皇族保護官及ヒ大總督其他高貴ノ人々及ヒ博覽會副總督諸執政維府ノ知事等祝歌ノ聲ト共ニ圓堂ヲ出テ先ツ展覽所中ノ西部ヲ經再ヒ圓堂ヲ過テ東部へ巡行スヘキ事

第二十一條

一 總テ皇帝及ヒ皇后ノ巡行ニ加列セサル者ハ

圓堂中ニテ博覽會ノ音樂園中ニ備置キタル樂隊トモニ樂ヲ奏スヘキ事

第二十二條

一 皇帝及皇后圓堂ヲ經祝歌ノ聲ト共ニ館ヲ出テ休息所へ赴クモ第三結尾ノ祝砲ヲ發シ然ル後開業ノ儀式ヲ終ル事

第二十三條

一 招待ノ賓客及ヒ出品者閉場マテノ門鑑及當日ノ門鑑ヲ有スル者ニ午後六時マテ會場縱觀ヲ許ス事

四月廿三日

總裁

シユワルツ、センボルン

右開業式中ノ祝辭ヲ新聞紙中ヨリ摘譯スル
左ノ如シ

皇族カール、リウードウイグ博覽會緣故記事并
一般ノ目錄ヲ皇帝ニ捧ケ左ノ祝辭ヲ奏ス
謹テ萬國博覽會開場祭ノ祝詞ヲ皇帝陛下ニ
揚奏ス夫レ至尊至貴ノ皇帝陛下此ノ盛舉偉
業ヲ設ケ宇内萬國ヲシテ我魯國ヲ仰カシメ

闔國人民ノ作業拔羣ノ進歩ヲ見ハセリ是レ
人民衆庶ニ於ケル國家ノ名譽ヲ萬世ノ後ニ
垂ル、爲メ協心盡力ノ致ス所ナリト
皇帝之ニ應詔シテ曰ク

抑此盛舉偉業ヲ全備セシムルハ汝衆庶ノ愛
國懇切ナル全心協力ノ補佐ニ因テ事爰ニ至
ルヲ得タリ朕大ニ感銘セリ此ニ於テ千八
百七十三年萬國博覽會ノ開場ヲ許セリ
此時又維府ノ知事フォルタル氏左ノ祝詞ヲ奏ス
至尊至貴ノ仁惠ナル皇帝陛下御即位以來既

二十有五年ヲ歴隆赫ノ聖德萬國ニ輝キ歴
 年ノ青史ニ垂レリ今般斯ル偉業ノ博覽會開
 場式ヲ行ヒ衆庶人民ヲシテ昇平ノ開化ヲ仰
 クヲ得セシムルハ皆陛下ノ浩德ニ出テ其
 德澤萬世ノ後ニ傳フヘシ又皇帝陛下此祭典
 ナ設ケラルハ普天ノ下萬民ノ精力ヲ盡シ
 テ製造シ得ル所ノ萬物ニ尊敬ヲ與フ衆庶人
 民全_レ心協力シテ此盛舉偉業ヲ成就スルヲ祝
 スルカ爲ナリ嗚呼舉國開化ノ進步實ニ盛大
 ナリト云フベシ爰ニ我舉國命運ノ長久ヲ祈

リ謹テ祝辭ヲ揚奏ス且ツ唱テ曰

神ヤ祝ス神ヤ護ス神ヤ護ス天王陛下我天

子佛郎約設ホーフ、ホーフ、ホーフ、

皇帝應詔シ終ルノ後音樂ヲ奏シ且ツ「ホーフ」高

ト意ト三タヒ唱ヘタリ爰ニ國務上將アドルフ

侯「フウイルベルグ」左ノ祝詞ヲ皇帝陛下ニ奏ス

謹テ政府ノ名ニ於テ萬國博覽會開場ノ祝詞
 ナ仁惠ナル皇帝陛下ニ揚奏ス夫レ如斯キ盛
 大ナル偉業精力ヲ尽シテ以テ速ニ成就シ開
 場式ヲ施行セラルハ我舉國ノ繁榮開化ノ

進歩ヲ徵シ大ニ賀祝ス畢竟是レ我譽國ノ衆
庶人民愛國ノ深切ナルヨリ全・心・協・力・ノ・致・ス
所ニテ闔國ノ人民誰カ陛下ノ浩德偉業ヲ欣
戴祝賀セサランヤ

